

nord piano 5

VIRTUAL HAMMER ACTION TECHNOLOGY

ユーザー・マニュアル

Nord Piano 5
日本語版

OSバージョン:1.1x

はじめに



安全上のご注意

ご使用になる前に必ずお読みください

ここに記載した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の方々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。注意事項は誤った取り扱いで生じる危害や損害の大きさ、または切迫の程度によって、内容を「警告」、「注意」の2つに分けています。これらは、あなたや他の方々の安全や機器の保全に関わる重要な内容ですので、よく理解した上で必ずお守りください。

マークについて

製品には下記のマークが表示されています。

WARNING:
TO REDUCE THE RISK OF FIRE OR ELECTRIC SHOCK DO NOT EXPOSE THIS PRODUCT TO RAIN OR MOISTURE.



マークには次のような意味があります。

- このマークは、機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。
- このマークは注意喚起シンボルであり、取扱説明書などに一般的な注意、警告、危険の説明が記載されていることを表しています。

火災・感電・人身障害の危険を防止するには

図記号の例

	△記号は、注意（危険、警告を含む）を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれています。左の図は「一般的な注意、警告、危険」を表しています。
	⊘記号は、禁止（してはいけないこと）を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「分解禁止」を表しています。
	●記号は、強制（必ず行うこと）を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を表しています。

以下の指示を守ってください

警告

この注意事項を無視した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性が予想されます

- 電源プラグは、必ずAC100Vの電源コンセントに差し込む。
- 電源プラグをコンセントに差し込む前に、必ずアース線を接続する。アース接続を外す場合は、電源プラグをコンセントから取り外してから行う。
- 電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりを拭き取る。感電やショートの際があります。
- 本製品はコンセントの近くに設置し、電源プラグへ容易に手が届くようにする。
- 次のような場合には、直ちに電源を切って電源プラグをコンセントから抜く。
 - 電源コードやプラグが破損したとき
 - 異物が内部に入ったとき
 - 製品に異常や故障が生じたとき
- 本製品を分解したり改造したりしない。
- 修理、部品の交換などで、取扱説明書に書かれていること以外は絶対にしない。
- 電源コードを無理に曲げたり、発熱する機器に近づけない。また、電源コードの上に重いものをのせない。
- 電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。
- 大音量や不快な程度の音量で長時間使用しない。
- 大音量で長時間使用すると、難聴になる可能性があります。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師に相談してください。
- 本製品に異物（燃えやすいもの、硬貨、針金など）を入れない。
- 温度が極端に高い場所（直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など）で使用や保管はしない。
- 振動の多い場所で使用や保管はしない。
- ホコリの多い場所で使用や保管はしない。
- 風呂場、シャワー室で使用や保管はしない。
- 雨天時の野外のように、湿気が多い場所や水滴のかかる場所で、使用や保管はしない。
- 本製品の上に、花瓶のような液体が入ったものを置かない。
- 本製品に液体をこぼさない。
- 濡れた手で本製品を使用しない。

注意

この注意事項を無視した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物理的損害が発生する可能性があります

- 正常な通気が妨げられない所に設置して使用する。
- ラジオ、テレビ、電子機器などから十分に離して使用する。ラジオやテレビ等に接近して使用すると、本製品が雑音を受けて誤動作する場合があります。また、ラジオ、テレビ等に雑音が入ることがあります。
- 外装のお手入れは、乾いた柔らかい布を使って軽く拭く。
- 電源コードをコンセントから抜き差しするときは、必ず電源プラグを持つ。
- 本製品を使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜く。電源スイッチをオフにしても、製品は完全に電源から切断されていません。
- 付属の電源コードは他の電気機器で使用しない。付属の電源コードは本製品専用です。他の機器では使用できません。
- 他の電気機器の電源コードと一緒にタコ足配線をしなない。本製品の定格消費電力に合ったコンセントに接続してください。
- スイッチやツマミなどに必要以上の力を加えない。故障の原因になります。
- 外装のお手入れに、ベンジンやシンナー系の液体、コンパウンド質、強燃性のポリッシャーを使用しない。
- 不安定な場所に置かない。本製品が落下してお客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。
- 本製品の上に乗ったり、重いものをのせたりしない。本製品が落下または損傷してお客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。
- 本製品が落下してお客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。お客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。
- 地震時は本製品に近づかない。
- 本製品に前後方向から無理な力を加えない。本製品が落下してお客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。

データについて

操作ミス等により万一異常な動作をしたときに、メモリー内容が消えてしまうことがあります。データの消失による損害については、当社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。データを他のメディア等へセーブすることのできる製品では、大切なデータはこまめにセーブすることをお勧めします。

目次

はじめに.....	5	TIMBRE.....	12
ありがとうございます!.....	5	アコースティック・ピアノの [TIMBRE] 設定.....	12
主な特徴.....	5	エレクトリック・ピアノの [TIMBRE] 設定.....	12
NORD ウェブサイトについて.....	5		
このマニュアルについて.....	5	5 SAMPLE SYNTH.....	13
PDF 版マニュアル.....	5	[LAYER A] ボタンと [LAYER B] ボタン.....	13
ファクトリー・プリセットに戻す.....	5	レイヤーAとレイヤーBを組み合わせる.....	13
OS アップグレード.....	5	KB SPLIT.....	13
サウンド.....	5	LAYER INIT.....	13
カスタム・サンプル.....	5	LEVEL.....	13
商標について.....	5	OCTAVE UP/DOWN.....	13
		[SUSTAIN] と [VOLUME].....	13
2 概要.....	6	サンプル・シンセについて.....	13
Piano 5 のパネル.....	6	モノフォニック・サンプル・インストゥルメント.....	13
ピアノ・セクション - 10 ページ.....	6	サンプル・インストゥルメントを選択する.....	14
サンプル・シンセ・セクション - 13 ページ.....	6	アルファベット順.....	14
プログラム・セクション - 15 ページ.....	6	音作りをする.....	14
エフェクト・セクション - 18 ページ.....	6	DYNAMICS.....	14
		[ATTACK]、[SUSTAIN]、[DECAY/RELEASE].....	14
3 使い始める.....	7	TIMBRE.....	14
接続する.....	7	UNISON.....	14
パネル・コントロール.....	7	VIBRATO.....	14
ダイヤルとノブ.....	7		
ボタン.....	7	6 PROGRAM.....	15
[SHIFT] ボタン.....	7	保存する ([STORE]).....	15
ディスプレイ上のボタン.....	7	プログラムを保存する.....	15
プログラム.....	7	プログラムに名前を付ける ([STORE AS..]).....	15
プログラムを選択する.....	8	PROG VIEW.....	15
リスト・ビュー.....	8	TRANSPOSE ON/SET.....	16
プログラムをエディットする.....	8	MONO.....	16
別のピアノ・サウンドを選ぶ.....	8	KB SPLIT.....	16
メモリー・プロテクト.....	8	スプリット・ポジションを選択する.....	16
プログラムを保存する.....	8	スプリットの [X-FADE] 設定.....	16
LIVE MODE.....	8	MIDI LED インジケーター.....	16
エフェクトをオンにする.....	9	[PROGRAM] ダイアル.....	16
サンプル・シンセを使用してレイヤー化する.....	9	プログラム・リストの [Abc] と [Cat].....	16
2 つ目のピアノ・サウンドを追加する.....	9	数字パッドによるナビゲーション・モード.....	16
スプリットを作成する.....	9	ライブ・プログラム.....	17
クロスフェード (X-FADE) を設定する.....	9	パニック.....	17
		[SHIFT]/[EXIT] ボタン.....	17
		プログラム・セレクト・ボタン.....	17
4 PIANO.....	10	プログラムとは?.....	17
[LAYER A] ボタンと [LAYER B] ボタン.....	10	ORGANIZE.....	17
レイヤーAとレイヤーBを組み合わせる.....	10	[ORGANIZE] ビューを開く.....	17
KB SPLIT.....	10	2 つのプログラムを切り替える.....	17
LAYER INIT.....	10	プログラムを移動する.....	17
LEVEL.....	10		
OCTAVE UP/DOWN.....	10	7 エフェクト.....	18
[SUSTAIN] と [VOLUME].....	10	エフェクトをオンにする.....	18
ピアノ・サウンドについて.....	10	MOD 1.....	18
ピアノ・サイズについて.....	11	TREM (トレモロ).....	18
ピアノ・インフォ.....	11	PAN (オート・パン).....	18
PIANO SELECT.....	11	RM (リング・モジュレーション).....	19
タイプとモデル.....	11	CTRL PED (コントロール・ペダル).....	19
LAYER DETUNE.....	11	MOD 2.....	19
[STRING RES] と [SOFT RELEASE].....	12	PHAS 1/PHAS 2 (フェイザー).....	19
ストリング・レゾナンス.....	12	FLANG (フランジャー).....	19
ソフト・リリース.....	12	CHOR 1/CHOR 2 (コーラス).....	19
Nord Triple Pedal.....	12	VIBE (ヴァイブ).....	19
ペダル・ノイズ.....	12	DEEP.....	19
ハーフ・ペダリング.....	12	AMP/COMP.....	19
ソステヌート.....	12	アンプ・モデル.....	19
ソフト・ペダル.....	12	DIST (ディストーション).....	19

COMP (コンプレッサー)	19	
EQUALIZER	19	
DELAY	20	
REVERB	20	
<hr/>		
8 MIDI	21	
MIDI 機能	21	
MIDI チャンネル	21	
本機での演奏を MIDI シーケンサーや DAW にレコーディングする	21	
MIDI メッセージ	21	
ノート・オン/オフ	21	
コントローラー	21	
プログラム・チェンジ	21	
ローカル・コントロールのオン/オフ	21	
PANIC	21	
<hr/>		
9 メニュー	22	
SYSTEM MENU	22	
1 - MEMORY PROTECT	22	
2 - GLOBAL TRANSPOSE	22	
3 - FINE TUNE	22	
4 - VERSION AND MODEL INFO	22	
SOUND MENU	22	
1 - PIANO PEDAL NOISE LEVEL	22	
2 - PIANO STRING RES LEVEL	22	
MIDI MENU	22	
1 - LOCAL CONTROL	22	
2 - MIDI CHANNEL	22	
3 - CONTROL/PROGRAM CHANGE MODE	22	
CC (コントロール・チェンジ)	22	
PC (プログラム・チェンジ)	22	
4 - TRANSPOSE MIDI AT	22	
5 - MIDI OUT VELOCITY CURVE	22	
ペダル・メニュー	23	
1 - SUSTAIN PEDAL TYPE	23	
2 - CONTROL PEDAL	23	
TYPE	23	
GAIN	23	
<hr/>		
10 NORD SOUND MANAGER	24	
NORD SOUND MANAGER について	24	
動作環境	24	
<hr/>		
11 NORD SAMPLE EDITOR	25	
Nord Sample Editor について	25	
動作環境	25	
<hr/>		
12. 接続について	26	
オーディオの接続	26	
HEADPHONES	26	
LEFT OUT、RIGHT OUT	26	
MONITOR IN	26	
MIDI の接続	26	
MIDI IN	26	
MIDI OUT	26	
USB 接続	26	
ペダル接続	26	
SUSTAIN PEDAL	26	
VOL/CTRL PEDAL	26	
<hr/>		
II 付録：MIDI コントローラー・リスト	27	
<hr/>		
III 索引	28	

1 はじめに

ありがとうございます!

Nord Piano 5 をお買い上げいただきありがとうございます。Nord Piano 5 は、想像力を掻きたてるサウンド制作を可能にしながら、妥協のないピアノ演奏を実現する、持ち運びに適したステージ用キーボードです。トリプル・センサー・キーボードとバーチャル・ハンマー・アクション・テクノロジーがかってないほどの臨場感をもたらし、幅広い演奏技術を用いたピアノ演奏を可能にします。綿密にサンプリングされたピアノとキーボードのサウンドを集めた Nord Piano Library を無料で利用できるため、Nord Piano 5 はこの先も演奏者にインスピレーションを与え続けていくことでしょう。

主な特徴

Nord Piano 5 には次のような主な特徴があります。

- ・ グランド・ピアノ、アップライト・ピアノ、エレクトリック・ピアノ、クラビネットやハーブシコードなどのサウンドに加え、あらかじめレイヤーされたサウンドを組み合わせて豊かな音色を作り出せるデジタル・カテゴリーを搭載した [PIANO] セクション。[Misc] カテゴリーからは、マリンバやビブラフォンといったピアノ以外のサウンドにアクセスできます。
- ・ 88 鍵または 73 鍵トリプル・センサー・グランド・ウェイテッド・アクション・キーボード
- ・ バーチャル・ハンマー・アクション・テクノロジー
- ・ 使いやすいサンプル・シンセ・セクション
- ・ [PIANO] セクションと [SAMPLE SYNTH] セクションのレイヤーを使用すると、2 種類のピアノ・サウンドとサンプル・シンセ・サウンドをレイヤー構成またはスプリット構成で使用できます。
- ・ 幅広く、自由度の高い音作りをサポートするエフェクト・セクション
- ・ プログラムを切り替えてもサウンドが途切れないシームレスな切り替え
- ・ クロスフェード・オプションを備えたキーボード・スプリット機能による、スプリット・ポイントをまたぐサウンドのスムーズな切り替え

NORD ウェブサイトについて

Nord ウェブサイト (<http://www.nordkeyboards.jp>、[nordkeyboards.com](http://www.nordkeyboards.com) (英文)) では、以下をご利用いただけます。

- ・ Nord Piano 5 やその他の Nord 製品に関する情報
- ・ 最新 OS バージョンのダウンロード
- ・ Nord Sound Manager や Nord Sample Editor などのフリー・ソフトウェアのダウンロード
- ・ Nord Piano Library および Nord Sample Library サウンドの無償ダウンロード
- ・ Nord に関するニュースや動画を配信する Nord World
- ・ 新しい OS バージョンやサウンドがリリースされたときに Nord Piano 5 に関するニュースと通知を受け取ることができるニュースレター
- ・ ユーザー・マニュアルのダウンロード
- ・ nordkeyboards.com/tutorials からチュートリアルを閲覧可能

ぜひ、Facebook、Instagram、Twitter、YouTube で Nord Keyboards をフォローしてください。SNS の投稿には、Nord 公式ハッシュタグ #iseenord をお気軽にご利用ください。

このマニュアルについて

本マニュアルはリファレンス・マニュアルとして使用できるように制作しました。また、実際に各種機能を使用するときの便利なヒントなどもご紹介しています。

PDF 版マニュアル

本マニュアルの PDF 版は、Nord ウェブサイトの Nord Piano 5 セクションからダウンロードできます。

ファクトリー・プリセットに戻す

工場出荷時のプログラム、サンプル、ピアノ、そしてインストゥルメント全体をバックアップしたものを Nord ウェブサイトからダウンロードできます。

OS アップグレード

Nord Piano 5 の最新 OS バージョンは、Nord ウェブサイトからいつでもダウンロードできます。Nord ウェブサイトに定期的にアクセスして最新情報をチェックしてください。

サウンド

Nord Piano 5 では、すべてのピアノやサンプルを入れ替えることができます。入れ替え作業は、Nord ウェブサイトから無償でダウンロードできる Nord Sound Manager ソフトウェアを使用して行います。

また、Nord Piano 5 は広範囲な Nord Piano Library や Nord Sample Library と互換性があります。追加されたサウンドは、随時、Nord ウェブサイトのサウンド・ライブラリー・セクションから無償でダウンロードできます。

カスタム・サンプル

無償の Nord Sample Editor を使用して、独自のサンプル・インストゥルメントを素早く簡単に作成できます。詳細にマッピングされたインストゥルメントやシンプルな FX サウンドの作成など、Nord Sample Editor と Nord Piano 5 を連携させることで多くの可能性が広がります。

商標について

本マニュアルに記載のあらゆる商標やブランド名はそれぞれの所有者が保有する商標であり、Clavia との一切の関係はありません。また、それらの商標やブランド名は本機の機能やサウンドを説明するためにのみ使用しています。

2 概要



ピアノ

サンプル・シンセ

プログラム

エフェクト

PIANO 5 のパネル

Nord Piano 5 は音楽的な想像力を掻きたてつつ、使いやすい楽器となるよう設計されています。以下は、パネル・セクションの概要です。

ピアノ・セクション – 10 ページ

Nord Piano 5 では、今後も増え続ける Nord Piano Library のサウンドを利用できるほか、幅広いピアノ・サウンドとキーボード・サウンドがプリセットされています。Nord Piano Library の最新のサウンドは定期的に Nord ウェブサイト (www.nordkeyboards.jp) にアップロードされ、無償でダウンロードできます。

2つのピアノ・レイヤーは、専用のパネル・コントロールを使用して簡単にオン/オフを切り替えたり、組み合わせたりできます。また、高度なストリング・レゾナンス機能（アコースティック・ピアノ用）をオンにしたり、キーボード・ベロシティ・レスポンスを調節したり、専用の音色設定を使用してピアノ・サウンドの特性を素早く変化させたりするためのコントロールもあります。レイヤー・デチューン機能を使用すると、2つのピアノ・サウンドをわずかに、あるいは大きくデチューンできます。

付属の Nord Triple Pedal を接続すると、ダンパー・ペダルの動作音を再現するダイナミック・ペダル・ノイズを使用できます。また、Triple Pedal を使用すると、ハーフ・ペダリング奏法が可能になるほか、ウナ・コルダやソステヌート・ペダルを使って豊かな演奏を行えるようになります。

サンプル・シンセ・セクション – 13 ページ

Nord Piano 5 を購入すると、Mellotron や Chamberlin の有名なピンテージ・サウンド、Symphobia の豊かなストリング・サウンドなどを含み、世界有数のサウンドを誇る膨大な無償のライブラリー、Nord Sample Library にアクセスできます。Nord Piano 5 には多くのサンプルがプリセットされています。[SAMPLE SYNTH] セクションでは、これらのサンプルをブラウズしたりロードしたりすることができます。サンプルの特性やレスポンスは、このパネルから様々な方法で調節できます。

[PIANO] セクションと同様に、専用のレイヤー・コントロールを使用して2つのサンプル・シンセ・サウンドを組み合わせたり、各レイヤーのオン/オフを切り替えたりできます。

プログラム・セクション – 15 ページ

Nord Piano 5 のプログラムには、[PIANO] セクションと [SAMPLE SYNTH] セクション、そしてすべてのエフェクトの設定が含まれています。[PROGRAM] セクションには大型の有機 EL (OLED) ディスプレイがあり、プログラムの呼び出しや保存のほか、様々な演奏機能や設定メニューを操作できます。

エフェクト・セクション – 18 ページ

エフェクト・セクションでは、幅広いエフェクトを簡単にアサインできます。

[MOD 1] および [MOD 2] ユニットには、伝説的なコンパクト・エフェクターやエフェクト・ユニットをモデルにしたトレモロ、コーラス、フェイザーなどの主要なモジュレーション・エフェクトが用意されています。

[AMP/COMP] セクションには、クラシックなアンプ・シミュレーション、チューブ・スタイルのオーバードライブ、力強いコンプレッサーなどのエフェクトが用意されています。

中心周波数可変タイプのミッド・レンジを備えた多用途な [EQUALIZER] は、ピアノ・レイヤーまたはサンプル・シンセ・レイヤー、あるいはそれらすべてに適用することでパワフルなトーン・スカルプティングを可能にします。

[DELAY] エフェクトは、微妙なアンビエンスやスラップバック・エフェクト、さらには限りないサウンドスケープまで、あらゆるエフェクトに使用できます。

そして最後に、豊かな [REVERB] は、オプションで [BRIGHT] モードや [DARK]、さらには特徴的な [CHORALE] 設定を選択でき、狭い部屋や広いホールなど、様々な空間の響きを瞬時にシミュレートできます。

3 使い始める

接続する

- ① 電源コードを本機に接続し、コンセントに接続します。それからサスティン・ペダルやヘッドフォン、またはアンプ、ミキサーなどのオーディオ機器に接続します。
- ② 本機の電源を入れてから、オーディオ機器の電源を入れます。電源を入れるときはそれぞれの機器のボリュームにご注意ください。

接続に関する詳細は、26ページもご参照ください。

パネル・コントロール

ダイヤルとノブ



[LEVEL]ダイヤルはLEDインジケータで囲まれています。LEDインジケータは、関連付けられたボリューム・レベル・インジケータの現在の値を視覚的に表します。

Nord Piano 5では、開始位置と終了位置が固定されていないノブをダイヤルと呼び、パラメーターや設定を切り替えるのに使用します。**[PROG/MENU]**ダイヤルもその1つです。このマニュアルでは、ダイヤルをエンコーダーと呼ぶこともあります。



Nord Piano 5では、多くのパラメーターにボリューム・タイプのノブが使用されています。プログラムをロードしたときにはノブの位置とパラメーターの実際の値が一致していないことが多いですが、ノブを回すと関連付けられたパラメーターの値がノブの位置を瞬時にキャッチしてノブの位置と一致するようになります。



※ **[SHIFT]**ボタンを押しながらノブを回すと、そのパラメーターの設定値を変更することなく現在の設定値を確認できます。

ボタン



セレクター・ボタンは、丸や三角形のLEDが付いたいくつかの選択肢から1つを選択するパラメーターに使用されます。ボタンを繰り返し押しして選択肢を順に切り替えて選択できます。



[ON OFF]ボタンは、機能のオン/オフやエフェクトのように一連の機能をまとめてオン/オフするときに使用します。オン/オフの状態はボタンの近くにあるLEDで示されます。また、ほとんどのエフェクトにはピアノ・レイヤーとサンプル・シンセ・レイヤーの割り当てを示すLEDもあります。

- ① この **[ON OFF]** ボタンは、エフェクト・ソースの選択にも使用します。一度押しとエフェクトがオンになり、すぐにもう一度押しとソースが次に選択可能なものに切り替わります。

[SHIFT] ボタン



Nord Piano 5のパネル・コントロールの多くはもう1つの機能を備えており、それらの機能は各ボタンのすぐ下にプリントされています。これらの機能を使用するには、**[SHIFT]**ボタンを押しながらそのコントロールを操作します。

[SHIFT]ボタンは、メニューを終了するときや保存操作を途中で中止するとき**[EXIT]**ボタンとしても使用します。

ディスプレイ上のボタン

メニュー・ページと設定ページ、あるいは**[ORGANIZE]**ビュー（下図を参照）には、関連する複数のオプションが含まれていることがあります。この場合、ディスプレイ上のボタンを使用して設定または実行するタスクを選択できます。ディスプレイの下部に表示されるこれらのボタンは、**[PROGRAM SELECT]**ボタンの**[1]~[4]**を使用して選択できます。例として、以下の場合に**[PROGRAM SELECT]**ボタンの**[3]**を押すと、スワップ操作の対象として「プログラムA:12」が選択されます。



プログラム

パネルの中央には、有機EL (OLED) ディスプレイを備える**[PROGRAM]**セクションがあります。パネル上のすべてのパラメーターを1つのプログラムに保存できます。Nord Piano 5のプログラム・メモリーには400個のプログラムをストックしておけます。

プログラムは「A」~「P」のラベルが付いた16個のバンクに分けられており、すべて自由に書き換えたり移動したりできます。

- ① プログラム・メモリーは、工場出荷時のプログラムを使用していつでも元の状態に戻すことができます。工場出荷時のプログラムはすべて Nord ウェブサイト (www.nordkeyboards.jp) からダウンロードできます。

プログラムを選択する

- ① プログラムはディスプレイの下にある5つの **[PROGRAM SELECT]** ボタンを押すか、**[PROGRAM]** ダイアルを回して選択できます。Nord Piano 5 のプログラム・バンクには25個(プログラム・ページ5ページ分)のプログラムを登録できます。

リスト・ビュー



下に**[LIST]**と書かれた**[PROGRAM]**ダイアルなどのダイアルでは、便利なリスト・ビューを使用できます。

- ① **[SHIFT]** ボタンを押しながら **[PROGRAM]** ダイアルを回すと、すべてのプログラムのリスト・ビューが表示されます。
- ② **[PROGRAM]** ダイアルを回してプログラムを確認します。リスト・モードでは16個すべてのプログラム・バンクにアクセスできます。
- ③ ディスプレイ上の **[Abc]** ボタンと **[Cat]** ボタンをそれぞれ試しに押してみてください。Abc モードではすべてのプログラムが名前順にリスト表示され、Cat モードではプログラム・カテゴリー順にリスト表示されます。
- ④ もう一度 **[SHIFT]** ボタンを押すとリスト・ビューが終了します。

※ **[PIANO SELECT]**ダイアルと**[SAMPLE SELECT]**ダイアルのリスト・ビューも同じように機能しますが、カテゴリーの確認にはパネル上のコントロールを使用します。

プログラムをエディットする

プログラムのエディットとは、ノブを回したりボタンを押したりして設定値を変更する、とても簡単な操作のことです。

- ① 次の手順に従い、エディットに使用するピアノ・ベースのプログラムを選択します。

※ ピアノ・インストゥルメントのコントロールはパネルの左側にあります。**[PROGRAM]**エリアの**[PROG VIEW]**ボタンを押すと、**[PROGRAM]**エリアのディスプレイのピアノ・セクションに、アクティブなレイヤーの選択したピアノ・サウンドの名前が表示されます。

別のピアノ・サウンドを選ぶ

- ② **タイプ**ボタンを使用して、使用するピアノ・サウンドのタイプを選択します (GRAND、UPRIGHT、ELECTRIC など)。
- ③ **[PIANO SELECT]** ダイアルを回して、選択したタイプのピアノ・サウンドを選択します。
- ④ **[SHIFT]** ボタンを押しながら **[PIANO SELECT]** ダイアルを回すとリスト・ビューが表示されるので、その中からピアノ・サウンドを選択してみましょう。もう一度 **[SHIFT]** ボタンを押すとリスト・ビューが終了します。

パネルでパラメーターの設定を変更すると、ディスプレイに表示されているプログラム・ナンバーの後ろに「E」が付きます。これは、プログラムがエディット中で、まだ保存されていないことを示しています。保存操作を行う前に別のプログラムをロードすると、それまでのエディット内容は消えてしまい、次に同じプログラムを選択したときにはエディットする前の設定が表示されます。

メモリー・プロテクト

Nord Piano 5はメモリーがプロテクトされた状態で出荷され、工場出荷時のプログラムが誤って上書きされないようになっています。メモリー・プロテクトはシステム・メニューでオフにすることができます。

- ① **[SYSTEM]** ボタン (**[SHIFT]** + **[PROGRAM SELECT 1]**) を押します。
 - ② メモリー・プロテクト (「Memory Protect」) はシステム・メニューの最初に表示される設定です。ディスプレイに別の設定が表示されている場合は、ディスプレイ上のボタンを使用して「Memory Protect」を選択します。
 - ③ **[PROGRAM]** ダイアルを回してこの設定をオフに変更します。
 - ④ **[EXIT]** (**[SHIFT]**) ボタンを押してシステム・メニューを終了します。
- ❶ この設定は、他のほとんどのシステム設定と同様に、再び変更されるまでは永続的に保存されます。

メニュー設定について詳しくは、22ページをご参照ください。

プログラムを保存する

- ① ディスプレイの左側にある **[STORE]** ボタンを1回押し、現在のプログラムの保存操作を始めます。
- ② **[STORE]** ボタンのLEDが点滅し、プログラムの保存先を指定する画面がディスプレイに表示されます。



- ③ エディットしたプログラムを同じプログラム番号に上書き保存する場合は、**[STORE]** ボタンをもう一度押します。別のプログラム番号に保存する場合は、ダイアルや **[PROGRAM SELECT]** ボタンを使用して別の場所を選択します。

※ 選択した場所のプログラムは、上書き保存する前にキーボードで試聴することができます。

- ④ プログラムの保存先を決めたら、**[STORE]** ボタンをもう一度押して保存操作を確定します。

❶ **[STORE]** ボタンを押す前に **[SHIFT]/[EXIT]** ボタンを押すと保存作業を中止します。

保存操作およびプログラムに名前を付ける方法については、15ページのプログラムのチャプターをご参照ください。

LIVE MODE

他のプログラムとは異なり、5つの**ライブ・モード**・プログラムに対して行われたエディットは、手動の保存操作を行わなくても自動で保存されます。

- ① **[LIVE MODE]** ボタンを押して **[PROGRAM SELECT]** ボタンを押すと、5つのライブ・プログラムを切り替えることができます。
- ② 選択したプログラムに対して、いずれかのエフェクト・セクションをオンにするなどのエディットを行います。
- ③ 別のライブ・プログラムを選択したあとエディットしたライブ・プログラムに戻ると、エディットが自動的に保存されたことがわかります。

- ④ [LIVE MODE] ボタンをもう一度押すと、ライブ・モードを終了し、プログラム・バンクに戻ります。

ライブ・モード・プログラムを通常のプログラムとしてプログラム・バンクに保存する場合は、[STORE]ボタンを押したあとに、[LIVE MODE]ボタンを押す(ライブ・モードを抜ける)ことで保存できます(前のセクションもご参照ください)。反対に、[STORE PROGRAM TO]画面で[LIVE MODE]ボタンを押してライブ・プログラムのいずれかを選択すれば、通常のプログラムをライブ・モードのいずれかのメモリーに保存することもできます。

エフェクトをオンにする

- ① ピアノ・ベースのプログラムが選択されていることを確認します。
- ② リバーブの [ON] ボタンを押してリバーブをオンにします。
- ③ リバーブ・セクター・ボタンの上にある [DRY WET] ノブでリバーブの量を調整します。
- ④ [DELAY] の [ON OFF] ボタンを押してディレイ・エフェクトをオンにします。
- ⑤ ボタンの上の LED は、どのサウンド・エンジンおよびレイヤーがそのエフェクトにルーティングされているかを示します ([PIANO A]/[PIANO B] または [SYNTH A]/[SYNTH B])。ディレイ・エフェクトと EQ エフェクトの場合はすべてのソースにルーティングされます。[PIANO A] LED が点灯していない場合は、[PIANO A] LED が点灯するまで [SHIFT] ボタンと [DELAY] の [SOURCE] ボタンを押します。

[ON OFF]/[SOURCE]ボタンをダブルクリックすると、現在アクティブなレイヤー間で、エフェクト・ユニットのソースを素早く切り替えることができます。

- ⑥ [TEMPO]、[FEEDBACK]、[DRY WET] のコントロールを使って、ディレイ・エフェクトの特性や強さを変更してみましょう。

サンプル・シンセを使用してレイヤー化する

- ① サンプル・シンセ・セクションで [LAYER A] をオンにします。
- ② [SAMPLE SELECT] ダイアルを回してサンプル・バンクからストリング・サウンドを選択します。[CATEGORY] ダイアルを使用して [Strings Ensemble] カテゴリーを選択します (まだ選択されていない場合)。ブラウザ中はディスプレイの一番下にサンプルの場所と名前が表示されます。
- ③ [LEVEL] ノブを使用して、そのストリングに適したサウンド・レベルを設定します。

サンプルを選択すると、そのサンプル・シンセのエンベロープ設定(アタック、ディケイ/サスティン/リリース)とダイナミクス設定のプリセットもロードされます。これらのパラメーターは必要に応じて手動で調節することもできます。これらのコントロールについて詳しくは、13ページ以降のサンプル・シンセのチャプターをご参照ください。

2つ目のピアノ・サウンドを追加する

引き続き同じプログラムを使用して、2つ目のピアノ・サウンドを追加してみましょう。

- ① [PIANO] セクションで [LAYER A] ボタンを押しながら [LAYER B] ボタンを1回押します。LEDが2つともオンになりますが、[LAYER B] のLEDが点滅していることに注意してください。これは、レイヤーBがエディット用にフォーカスされていることを示しています。
- ② レイヤーBがフォーカスされた状態で、[PIANO SELECT] コントロールを使用して別のピアノ・サウンドを選択します。

- ③ [LAYER A] ボタンと [LAYER B] ボタンを使用してそれぞれのレイヤーをフォーカスし、[LEVEL] ダイアルを回して各ピアノ・サウンドのレベルを調節します。

[OCTAVE SHIFT]コントロール ([SHIFT] + [LAYER A]/[LAYER B]) を使用して、各レイヤーをオクターブ単位で自由にトランスポートしてみましょう。

2つ目のサンプル・シンセ・サウンドの追加も同じ方法で行います(ただし、ピアノではなくサンプル・シンセの[LAYER]ボタンを使用します)。

アクティブな2つのレイヤーの片方をオフにするには、アクティブな状態を維持するレイヤーのボタンを押したまま、もう一方の[LAYER]ボタンを1回押します。

各レイヤーで選択されているサウンドを常に表示しておくには、[PROGRAM]セクションの[PROG VIEW]を押します。

スプリットを作成する

ピアノとサンプル・シンセの各レイヤーは、キーボードのスプリット・ポイントの左右に自由に割り当てることができます。これにより、レイヤーD・サウンドやスプリット・サウンドを色々と組み合わせることができます。以下の手順は、スプリット・ポイントの左側にピアノ・サウンド、右側にサンプル・シンセ・サウンドを割り当ててスプリットを設定する方法です。

- ① ピアノ・レイヤーとサンプル・シンセ・レイヤーがどちらもアクティブになっていることを確認します。
- ② [PIANO] セクションで、[LO] の LED のみが点灯するまで [KB SPLIT] ボタンを押します。
- ③ [SAMPLE SYNTH] セクションで、[UP] の LED のみが点灯するまで [KB SPLIT] ボタンを押します。
- ④ スプリット・ポイントの位置を調節するには、[PROGRAM] セクションの [KB SPLIT KEY] ボタンを繰り返し押して位置を選択します。選択した位置に対応するキーボードの上のLEDが点灯します。

これでキーボードが2つのゾーンに分割されます。スプリット・ポイントはキーボードの上の緑のLEDで表されます。

[PIANO]セクションと[SAMPLE SYNTH]セクションの[OCTAVE UP]または[OCTAVE DOWN]コントロールを使用すると、割り当てられる音の範囲が変わります。

クロスフェード(X-FADE)を設定する

[X-FADE]を有効にすると、スプリット・ポイントの左右のサウンドがなめらかに切り替わります。

- ⑤ [X-FADE] ([SHIFT] + [KB SPLIT]) を押します。[X-FADE] の [1] が選択されました。これは、スプリット・ポイントの6音下から6音上までを含む短いクロスフェードです。
- ⑥ もう一度 [X-FADE] ([SHIFT] + [KB SPLIT]) を押して [X-FADE] の [2] を選択します。これは、スプリット・ポイントの12音下から12音上までを含む長いクロスフェードです。

これで、スプリット・ポイントをまたいで演奏すると、低音部と高音部の間に「クロスフェード」がかかるようになります。キーボードの上のスプリットLEDが赤色に点灯します。これは、長いクロスフェード([X-FADE]の[2])が使用されていることを表しています。短いクロスフェード([X-FADE]の[1])が使用されている場合はLEDが黄色に、クロスフェードが「オフ」に設定されている場合はLEDが緑色に点灯します。

4 PIANO



[LAYER A] ボタンと [LAYER B] ボタン

Nord Piano 5 には 2 つの独立したピアノ・レイヤーがあります。これらは **[LAYER A]** ボタンと **[LAYER B]** ボタンを使用して**オン / オフ**を切り替えます。

一方のレイヤーがオンになっている状態でもう一方の [LAYER] ボタンを押すと、そのレイヤーに切り替わります。

レイヤーAとレイヤーBを組み合わせる

アクティブなレイヤーのボタンを押したままもう一方の [LAYER] ボタンを 1 回押すと、2 つのピアノ・サウンドを組み合わせることができます。エディット用にフォーカスされているレイヤーは LED が点滅します。

アクティブな 2 つのレイヤーの片方をオフにするには、アクティブな状態を維持するレイヤーのボタンを押したまま、もう一方の [LAYER] ボタンを 1 回押します。

両方のレイヤーをオフにするには、両方の [LAYER] ボタンを同時に 1 回押します。

KB SPLIT

[KB SPLIT] の **[LO]** と **[UP]** の 2 つの LED がどちらも点灯していない場合、アクティブ・レイヤーのピアノ・サウンドはキーボード全体に割り当てられています。

各ピアノ・レイヤーは、[PIANO] の **[KB SPLIT]** ボタンを押すことで、スプリット・ポイントの下側 (**[LO]**) または上側 (**[UP]**) に割り当てることができます。

KB スプリットのオプションについて詳しくは、16 ページをご参照ください。

LAYER INIT

[LAYER INIT] ([SHIFT] + [KB SPLIT]) を押すと、Nord Piano 5 が初期化されて現在フォーカスされているピアノ・レイヤーだけがアクティブになります。この操作を行うと、REVERB を除く各エフェクトも初期化されてアクティブなピアノ・レイヤーがソースとして設定されます。

LEVEL

[LEVEL] ダイアルは、現在フォーカスされているレイヤーのピアノ・サウンドのボリューム・レベルを制御します。

[SHIFT] を押しながら **[LEVEL]** ダイアルを回すと、[SAMPLE SYNTH] のレイヤーを含む、フォーカスされているレイヤーに重ねられているすべてのサウンドのレベルが変更されます。

- ① ボリューム・ペダルを接続している場合、ペダルを踏むと [LEVEL] ダイアルに現在のボリューム・レベルが表示されます。ペダルから足を外すと、ダイアルには再び設定されている「最大」レベルが表示されます。

OCTAVE UP/DOWN

[OCTAVE UP] ([SHIFT] + [LAYER B]) を押すと [PIANO] セクションを 1 オクターブ上 (+12 半音) にトランスポートでき、**[OCTAVE DOWN]** ([SHIFT] + [LAYER A]) を押すと 1 オクターブ下 (-12 半音) にトランスポートできます。オクターブ・シフトをキーボード全体に割り当てると、キーボード全体を 1 オクターブ上または下にトランスポートできます。スプリットがオンになっている場合、トランスポートできる値は異なりますが、ピアノの全範囲にいつでもアクセスできます。

[SUSTAIN] と [VOLUME]

[SUSTAIN] ([SHIFT] + [DETUNE]) を押すと、接続したサステイン・ペダル (Nord Triple Pedal など) をフォーカスされたピアノ・レイヤーで使用できるようになります。接続したペダルの設定方法について詳しくは、23 ページのメニューのチャプターをご参照ください。

[VOL PED] ([SHIFT] + [TOUCH]) を押すと、接続したコントロール・ペダルをフォーカスされたピアノ・レイヤーのボリューム・コントロールとして割り当てることができます。

ピアノ・サウンドについて

Nord Piano 5 のピアノには 6 つのタイプ (カテゴリー) があり、各タイプには複数のインストゥルメント・モデルがあります。無償のアプリケーション Nord Sound Manager を使用すると、Nord ウェブサイト (www.nordkeyboards.jp) から新たなピアノ・サウンドをダウンロードして Nord Piano 5 に追加できます。

工場出荷時の状態では、厳選されたアコースティック・ピアノ、エレクトリック・ピアノ、デジタル・ピアノなどの高品位サウンドとピアノ・レイヤーが内蔵されています。

- ① Nord Sound Manager を使用してピアノ・インストゥルメントを本機へダウンロードすると、そのインストゥルメントのカテゴリーに応じたメモリー・ロケーションに自動的に保存されます。

ピアノ・インストゥルメントを使用するプログラムには、そのピアノ・インストゥルメントのカテゴリーやモデル・ナンバーを識別するデータが入っています。そのため、Nord Piano 5 にダウンロードされていないピアノを必要とするプログラムを選択すると、ディスプレイに「Piano not found」と表示されます。このような場合、同じカテゴリーまたは別のカテゴリーの別のモデルを選び直すか ([PIANO SELECT] ダイアルを使用)、Nord Sound Manager を使用して必要なインストゥルメントを本機にダウンロードしてください。

ピアノ・サイズについて

Nord Piano Library のサウンドには、最大で 4 種類のサイズがあります。以下の表は、各サイズの違いをまとめたものです。

	SmI	Med	Lrg	XL
ステレオ・サンプリング	✓	✓	✓	✓
詳細なベロシティ・マッピング	✓	✓	✓	✓
全鍵にサンプリングをマッピング				✓
全音域のストリング・レゾナンス			✓	✓
中音域のストリング・レゾナンス		✓		

エクストラ・ラージ (XL) ではサウンドが鍵盤全体にマッピングされるため、Nord の各キーがオリジナル楽器の鍵盤に対応します。

ラージ (Lrg) には、すべての音域でストリング・レゾナンスが収録されています。

ミディアム (Med) には、演奏上重要な位置を占める中音域のストリング・レゾナンスが収録されています。

スモール (SmI) のピアノ・ファイルにはストリング・レゾナンスが収録されていないため、使用するピアノ・メモリーの容量が最も小さくなります。

ピアノ・インフォ

[PIANO INFO] ボタン ([SHIFT] + [ON]) を押すと、バージョン・ナンバーやピアノ・ファイルの正確なサイズなど、現在選択しているモデルに関する詳細な情報が表示されます。

PIANO SELECT

タイプとモデル

[PIANO SELECT] の **タイプ** ボタンを使用して、ピアノ・サウンドをどのタイプ (カテゴリー) から選択するかを決めます。ピアノ・サウンドは全部で 6 つのタイプに分類されます。

タイプ	内容
Grand	アコースティック&エレクリック・グランド・ピアノ
Upright	アップライト・ピアノ
Electric	エレクトリック・ピアノ
Clav/Hps	クラビネットとハーブシコード
Digital	デジタル・ピアノ・サウンドとレイヤー・ピアノ・サウンド
Misc	ピアノ/キーボード以外のサウンド

❶ 設定されたピアノ・カテゴリーを別のピアノ・カテゴリーに変更することはできません。

選択したタイプの中のそれぞれのモデルを切り替えるには、[PIANO SELECT] ダイアルを使用します。選択したモデルの名前は、[PROGRAM] セクションのディスプレイの、フォーカスされているピアノ・レイヤーに対応する行に表示されます。

クラビネットについて

Nord Piano 5 では、オリジナルの Clavinet D6 のすべてのピックアップの組み合わせを使用できます。

Clav Model A: 「ネック」側のピックアップを使用したソフトなサウンド。
Clav Model B: 「ブリッジ」側のピックアップを使用したブライトなサウンド。
Clav Model C: 両方のピックアップを同位相で出力したパワフル・サウンド。
Clav Model D: 両方のピックアップを使用し、位相を反転させたもの。
基音成分がほとんど打ち消された線の細いサウンド。

リスト・ビュー

[SHIFT] ボタンを押しながら **[PIANO SELECT]** ダイアルを回すと、ピアノ・サウンドの **リスト・ビュー** がオンになります。

Grand	3/9
White Grand	XL
Royal Grand	XL
Velvet Grand	L
Silver Grand	L
Grand Imperial	L

ピアノ・リストの一番上の行には、現在選択しているモデルのタイプ (ここでは「Grand」)、そのタイプのモデル数 (9)、そのモデルのインデックス (3) が表示されます。

リスト・ビューでタイプを選択するには、リスト・ビュー以外の場合と同様に、**[PIANO SELECT]** ボタンを使用します。

LAYER DETUNE

レイヤー構成で、レイヤー A とレイヤー B がどちらもアクティブになっている場合、レイヤー・デチューン機能を使用して 2 つのピアノ・サウンドをデチューンできます。デチューンには **[1]**、**[2]**、**[3]** という 3 種類のレベルが用意されており、コーラスのような微細な効果をかけることも広い空間の響きを瞬時に再現することもできます。

TOUCH



Nord Piano Library のピアノは非常に幅広いダイナミクス・レンジで収録されており、演奏のスタイルや好みに応じてダイナミクス・レスポンスを調節できます。

[HEAVY] 設定は、柔らかく表現力豊かな演奏に適しています。[TOUCH] の設定 (**[MEDIUM]**、**[LIGHT]**) を増やすと、大きな音で演奏しやすくなります。

[STRING RES] と [SOFT RELEASE]

ストリング・レゾナンス



ストリング・レゾナンスとは、すべての弦または一部の弦が、演奏中の弦の基音や倍音に共鳴する音響現象のことです。

[STRING RES] をオンにすると、グランド・ピアノやアップライト・ピアノの内部で起きている豊かで素晴らしい音響現象がすべての音域で再現されます。

また、サスティン・ペダルを踏み、すべてのダンパーが弦から離れることで、レゾナンス・エフェクトがさらに増大します。

ストリング・レゾナンス・エフェクトのサウンド・レベルは、サウンド・メニューで設定できます (22 ページを参照)。

- ❶ ストリング・レゾナンス機能をサポートしていないピアノを選択した場合、この機能は使用できません。例えば、スモール (Sml) バージョンのグランド・ピアノ、アップライト・ピアノ、エレクトリック・ピアノ、デジタル・ピアノ、レイヤー・ピアノはこの機能をサポートしていません。

ソフト・リリース

[SOFT RELEASE] をオンにすると、ピアノ・サウンドのリリースがわずかに長く、不明瞭になります。これは、アコースティックやエレクトリック・ピアノのダンパー・テンションを調整するのと同じ効果となります。また、リリースのかかり具合はノートごとにタッチの強弱に反応するようになっています。

- ❶ クラビネットやハーブシコードなどの一部のピアノ・タイプはソフト・リリース機能に対応していません。対応していないピアノ・タイプを選択すると、この機能が無効になります。

NORD TRIPLE PEDAL

付属の Nord Triple Pedal があれば、次の奏法や機能を使用できます。

ペダル・ノイズ

ペダル・ノイズ ([SHIFT] + [ACOUSTICS]) 機能は、アコースティック・ピアノでダンパー・ペダルを操作したときの機械的なノイズを再現するものです。ノイズの大きさは、サスティン・ペダルを踏む強さに応じて動的に変化します。ペダル・ノイズの大きさはサウンド・メニューで設定できます (22 ページを参照)。

ハーフ・ペダリング

Nord Triple Pedal のサスティン・ペダルを使用すると、ハーフ・ペダリング奏法で演奏できます。つまり、ピアノの「仮想」ダンパーが完全に上がっても下がってもいない状態になり、「ややダンパーがかかった」サウンドになります。

ソステヌート

ソステヌート・ペダル (中央) を踏むと、ペダルを踏んだときに押さえている音のみサスティンがかかり、そのほかの音にはサスティンがかかりません。

ソフト・ペダル

左のペダルはソフト・ペダル、別名ウナ・コルダです。このペダルを踏むと、すべての音の音量がわずかに下がり、やや落ち着いた音色になります。

TIMBRE



ピアノの **[TIMBRE]** 設定を使用すると、エフェクト・セクションの EQ ユニットの他のタスク用に空けたまま、選択したピアノ・サウンドの周波数部分と特性を素早く変化させることができます。

アコースティック・ピアノの [TIMBRE] 設定

[TIMBRE] の他のオプションとは異なり、アコースティック・ピアノを **[SOFT]** モードに設定しても、サウンドにフィルターは適用されません。代わりに、与えられたベロシティに対してより柔らかいサンプルが選択されるように現在のピアノのサンプルの選択が調整され、サウンドが柔らかく落ち着いた音色になります。

[MID] モードに設定すると、高音域と低音域の両方が抑えられ、ミッド・レンジが強調された鋭いサウンドになります。

[BRIGHT] モードに設定すると、高音域が強調されて、非常に明るく澄んだサウンドになります。

エレクトリック・ピアノの [TIMBRE] 設定

エレクトリック・ピアノを選択した場合、[TIMBRE] の設定はエレクトリック・ピアノのサウンドに合わせて調整されます。

[SOFT] に設定すると、鮮明で迫力のあるサウンドを維持したままトレブル・サウンドとベル・サウンドが軽減されます。

[MID] に設定すると、アッパー・ミッド・レンジがブーストされ、サウンドに「存在感」と切れ味が増えます。

[BRIGHT] に設定すると、アッパー・ミッド・レンジがブーストされてブリリアンス/トレブルが追加され、選択したピアノ・サウンドに存在感と透明感が加えられます。

[DYN01] と **[DYN02]** の設定は、70 年代および 80 年代初頭に使われていたタイン・ベース・エレクトリック・ピアノの付加機能だったカスタム・プリアンプと EQ で作成されたサウンドをベースにしています。これらの設定は、どちらもエレクトリック・ピアノ特有の「ベル」サウンドを大幅に増幅します。**[DYN02]** 設定ではベース・レジスターもブーストされ、極端に「中域が抑えられた」サウンドになります。

CLAV EQ 設定

オリジナルのクラビネットには 4 つのロッカー・スイッチがあり、内蔵 EQ をコントロールできました。Nord Piano 5 では、これらのスイッチで作られるほとんどの組み合わせを使用できます。

使用できる設定は、[Soft]、[Treble]、[Soft+Treble]、[Brilliant]、[Soft+Brilliant]、[Treble+Brilliant]、[Soft+Treble+Brilliant] です。

5 SAMPLE SYNTH



[LAYER A] ボタンと [LAYER B] ボタン

2つの独立したサンプル・シンセ・レイヤーがあります。これらは **[LAYER A]** ボタンと **[LAYER B]** ボタンを使用して**オン/オフ**を切り替えます。

一方のレイヤーがオンになっている状態でもう一方の [LAYER] ボタンを押すと、そのレイヤーに切り替わります。

レイヤーAとレイヤーBを組み合わせる

アクティブなレイヤーのボタンを押したままもう一方の [LAYER] ボタンを1回押すと、2つのサンプル・シンセ・サウンドを組み合わせたことができます。エディット用に現在フォーカスされているレイヤーはLEDが点滅します。

アクティブな2つのレイヤーの一方をオフにするには、アクティブな状態を維持するレイヤーのボタンを押したまま、もう一方の [LAYER] ボタンを1回押します。

両方のレイヤーをオフにするには、両方の [LAYER] ボタンを同時に1回押します。

KB SPLIT

KB スプリットの **[LO]** と **[UP]** の2つのLEDがどちらも点灯していない場合、アクティブ・レイヤーのサンプル・シンセ・サウンドはキーボード全体に割り当てられています。

各レイヤーは、[SAMPLE SYNTH] の **[KB SPLIT]** ボタンを押すことで、スプリット・ポイントの下側 (**[LO]**) または上側 (**[UP]**) に割り当てることができます。

KB スプリットのオプションについて詳しくは、16ページをご参照ください。

LAYER INIT

[LAYER INIT] ([SHIFT] + [KB SPLIT]) を押すと、Nord Piano 5 が初期化されて現在フォーカスされているサンプル・シンセ・レイヤーだけがアクティブになります。この操作を行うと、REVERB を除く各エフェクトも初期化されてアクティブなサンプル・シンセ・レイヤーがソースとして選択されます。

LEVEL

[LEVEL] ダイアルは、現在フォーカスされているレイヤーのサンプル・シンセ・サウンドのボリューム・レベルを制御します。

[SHIFT] を押しながら **[LEVEL]** ダイアルを回すと [PIANO] セクションのレイヤーを含む、フォーカスされているレイヤーに重ねられているすべてのサウンドのレベルが変更されます。

- ① ボリューム・ペダルを接続している場合、ペダルを踏むと [LEVEL] ダイアルに現在のボリューム・レベルが表示されます。ペダルから足を外すと、ダイアルには再び設定されている「最大」レベルが表示されます。

OCTAVE UP/DOWN

[OCTAVE UP] ([SHIFT] + [Layer B]) または **[OCTAVE DOWN]** ([SHIFT] + [Layer A]) を使用すると、[SAMPLE SYNTH] セクションを1オクターブ上または下 (±12半音) にトランスポートできます。オクターブ・シフトをキーボード全体に割り当てると、キーボード全体を1オクターブ上または下にトランスポートできます。KB スプリット・モードでは使用できる設定が異なりますが、シンセサイザーの全範囲にいつでもアクセスできます。

[SUSTAIN] と [VOLUME]

[SUSTAIN] ([SHIFT] + [TIMBRE]) を押すと、接続したサステイン・ペダルをシンセ・セクションで使用できるようになります。

[VOL PED] ([SHIFT] + [DYNAMICS]) を押すと、接続したコントロール・ペダルを [SAMPLE SYNTH] セクションのボリューム・コントロールとして割り当てることができます。

接続したペダルの設定方法について詳しくは、23ページをご参照ください。

サンプル・シンセについて

多用途な [SAMPLE SYNTH] セクションには、すぐに使用できるサンプル・インストゥルメントが多数搭載されています。また、Nord ウェブサイト (www.nordkeyboards.jp) の Nord Sample Library には数多くのサンプル・インストゥルメントが用意されており、無償のアプリケーション Nord Sound Manager を使用してそれらを本機にダウンロードできます。さらに、同じく Nord ウェブサイトからダウンロードできる無償のアプリケーション Nord Sample Editor を使用すれば、あらゆるサウンド・ソースからカスタム・ユーザー・サンプル・インストゥルメントを作成できます。

モノフォニック・サンプル・インストゥルメント

[Synth Lead] カテゴリや [Synth Bass] カテゴリに含まれているサンプル・インストゥルメントの中には、モノフォニックなレガート・インストゥルメントとして構成されているものがあります。これは、従来のモノフォニック・シンセサイザーで演奏したときのように再生されることを意味し、エンベロープは独立したストロークでのみトリガーされます。

- ② モノフォニックなレガート構成のオン/オフを手動で切り替えることはできません。ポリフォニック演奏に似たサウンドは、たとえば [Synth Classic] カテゴリなどに収録されています。

サンプル・インストゥルメントを選択する

[CATEGORY] ダイアルは、ディスプレイに表示される使用可能なカテゴリーを切り替えたり選択したりするのに使用します。

カテゴリーを選択すると、そのカテゴリー内のすべてのサンプル・インストゥルメントを **[SAMPLE]** ダイアルで選択できるようになります。選択したサンプル・インストゥルメントの場所と名前はプログラム・エリアのディスプレイに表示されます。

リスト・ビュー

[SHIFT] ボタンを押しながら **[CATEGORY]** ダイアルまたは **[SAMPLE]** ダイアルを回すと、サンプル・インストゥルメントをリスト・ビューでブラウズできます。リスト・モードでない場合と同じように、ナビゲーションには **[CATEGORY]** ダイアルと **[SAMPLE SELECT]** ダイアルを使用します。



アルファベット順

カテゴリー・リストの最後にはアルファベット順オプションがあります。このオプションを選択すると、**[SAMPLE]** ダイアルを使用して、1つのリスト内のすべてのサンプル・インストゥルメントをカテゴリーではなく名前順にブラウズできます。

音作りをする

ロードしたサンプル・インストゥルメントのサウンドと動作を微調整する方法がいくつかあります。この操作により、サンプル・インストゥルメントのダイナミクスや反応を調節できます。各サンプル・インストゥルメントには以下のパラメーターのプリセット値が用意されており、サンプル・インストゥルメントを選択すると自動的にロードされます。コントロールはすべて手動で調節できます。

DYNAMICS

[DYNAMICS] コントロールは、選択したサンプル・インストゥルメントのアンプ・エンベロープのペロシティ・レスポンス（事実上のダイナミック・ボリューム・レベル）を設定します。

[DYNAMICS] 設定が **[1]**、**[2]**、**[3]** の場合、サンプル・インストゥルメントのダイナミック・レンジが広がります。**[DYNAMICS]** をオフにすると、プリセット・フィルター設定を含む、ペロシティで制御されるすべてのパラメーターが無効になります。

[ATTACK]、[SUSTAIN]、[DECAY/RELEASE]

これらのコントロールを使用すると、サンプル・シンセ・サウンドの輪郭、つまりエンベロープを設定できます。

[ATTACK] は、サンプルが最大レベルに達するまでの時間を設定します。**[DECAY/RELEASE]** は、サウンドがトリガーされてから消えるまでの時間を設定します。ノブを 12 時の位置に設定した場合 **[SUSTAIN]** モードとなり、サンプル・インストゥルメントは鍵盤を押している間中鳴り続けます。12 時の位置を越えると、ノブを右に回すほど鍵盤を放したあとのテイル部分が長くなります。

TIMBRE

[SOFT] に設定すると、サンプル・インストゥルメントの高音域を減衰するカスタム・フィルターがオンになります。これは、明るいサウンドを落ち着かせるのに便利です。**[BRIGHT]** に設定すると、サンプル・インストゥルメントの高音域が強調されます。これは、レイヤー構成などで特定のサウンドを際立たせたい場合に便利です。

UNISON

ユニゾン機能は、わずかにデチューンしてステレオ・パンニングしたソース・サンプルのコピーを複数組み合わせることで、アンサンプルのようなサウンドを作成します。

[UNISON] には **[1]**、**[2]**、**[3]** という 3 種類のレベルが用意されており、数字が大きくなるほどデチューンの度合いが増し、ステレオの広がりが大きくなります。

VIBRATO

[VIBRATO] をオンにすると、選択したサンプル・シンセ・サウンドにリアルなビブラートが追加されます。**[DLY1]**、**[DLY2]**、**[DLY3]** という 3 つのディレイ・オプションがあり、音符を演奏してからビブラートがかかるまでの時間を設定します。

[RATE/AMT] (**[SHIFT]** + **[VIBRATO]**) を押すと、**[Rate/Amount]** ディスプレイが表示されます。ビブラートのレートは 2 ~ 8Hz の値に設定できます。

ディスプレイ上の対応するボタンを押すと **[Amount]** 設定にアクセスでき、ビブラートによってどの程度のモジュレーションを適用するか、つまりビブラートの「強さ」を設定できます。これは 0 ~ 10 の値に設定できます。

- ① サンプル・インストゥルメントをロードすると、ビブラートのレートと量の設定がサンプル・インストゥルメント・プリセットの一部としてロードされます。

6 PROGRAM



[PROGRAM] セクションには、プログラムの保存やロードなどの機能、ライブ・プログラム、キーボード・スプリット機能などがあります。さらに、システム、サウンド、MIDI などの設定メニューにもアクセスできます。各メニューとその設定については、22 ページ以降のチャプターで詳しく説明します。

保存する ([STORE])



[STORE] ボタンを使用すると、エディットしたプログラムをプログラム・バンク内の任意の場所に保存できます。選択した場所にプログラムが存在する場合、既存のデータは上書きされます。

- ❶ プログラムが誤って上書きされないよう、Nord Piano 5 の工場出荷時にはメモリーがプロテクトされています。プログラムを保存できるようにするには、システム・メニューで [Memory Protect] パラメーターを「Off」に設定する必要があります。詳しくは 22 ページをご参照ください。

プログラムを保存する

名前を変更せずにプログラムを保存する手順は以下のとおりです。

- ❶ **[STORE]** ボタンを 1 回押します。すると、[STORE] LED が点滅し始め、プログラムの名前と場所がディスプレイに表示されます。



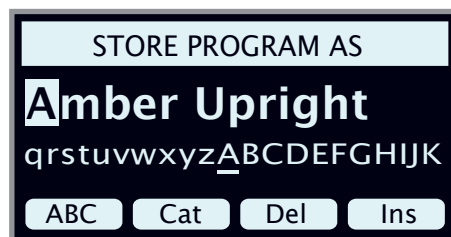
- ❷ 別の保存場所を選択するには、ダイヤルと **[PROGRAM SELECT]** ボタンの [1] ~ [5] を使用します。また、**[LIVE MODE]** ボタンを押して希望するライブ・プログラムを選択すると、いずれかのライブ・

プログラムの場所にプログラムを保存することもできます。選択した保存場所にあるプログラムは、キーボードを弾いて確認できます。

- ❶ 保存操作を途中で中止するには **[EXIT]** ボタンを押します。
- ❸ 適切な保存場所を選択したら、もう一度 **[STORE]** ボタンを押して操作を確認します。

プログラムに名前を付ける ([STORE AS...])

- ❶ プログラムに名前を付けて保存するには、**[STORE AS...]** ボタン ([SHIFT] + [STORE]) を押します。
- ❷ ディスプレイ上の **[ABC]** ボタンを押すと、アルファベットの列が表示されます。ダイヤルを使用して現在の位置の文字を選択します。ディスプレイ上の **[ABC]** ボタンを放すとカーソルが次に移動します。ダイヤルを使用してカーソルを自由に動かすことができます。ディスプレイ上の **[Ins]** ボタンを押すとカーソルの位置にスペースが挿入され、**[Del]** ボタンを押すと選択している文字が削除されます。



- ❸ プログラムのカテゴリーを設定するには、ディスプレイ上の **[Cat]** ボタンを押したままリストからカテゴリーを選択します。
- ❹ **[STORE]** ボタンを押すと、[STORE PROGRAM TO] 画面が表示されます。ダイヤルと **[PROGRAM SELECT]** ボタンを使用して場所を選択します。
- ❺ 適切な保存場所を選択したら、もう一度 **[STORE]** ボタンを押します。プログラムの名前は、Nord Sound Manager を使用して付けることもできます。

PROG VIEW

[PROG VIEW] ボタンを押すと、ディスプレイの 2 種類の表示モードが切り替わります。デフォルトのビューにはプログラムの名前と番号のみが表示され、ディスプレイの下半分は、パネル・コントロールを変更した際にパラメーターに関するヒントを表示するスペースになっています。

2 番目の表示モードにはプログラムの名前と番号が小さく表示され、ディスプレイの下半分には各アクティブ・レイヤーの現在の選択が表示されます。

- ❶ この表示モードでも、パネル・コントロールを調節すると、ピアノ・レイヤーとサンプル・シンセ・レイヤーに関する情報が一時的に非表示になり、ディスプレイの下半分にパラメーターに関するヒントが表示されます。

TRANSPOSE ON/SET

Nord Piano 5 では、プログラムごとに半音単位で±6半音までトランスポーズできます。**[TRANSPOSE]** ボタンを押すと、この機能のオン/オフが切り替わります。**[TRANSPOSE]** ボタンを押しながらダイヤルを回して値を設定します。トランスポーズ設定は、プログラムの一部として保存して呼び出すことができます。

※ **すべてのプログラムに影響するトランスポーズを設定するには、システム・メニューでグローバル・トランスポーズ・パラメーターを使用します。**

トランスポーズ・パラメーターは2種類の方法で[MIDI]に適用できます。MIDIメニューの「Transpose MIDI at」設定に基づいて、送信されるMIDIが受信されるMIDIのいずれかをトランスポーズします。詳しくは22ページをご参照ください。

MONO

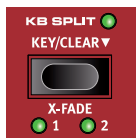
[MONO] ([SHIFT] + [TRANSPOSE]) を押して、Nord Piano 5 からモノラルへの出力を設定します。これは、設定をオフにするか Nord Piano 5 を終了するまですべてのプログラムに影響を与えるグローバル設定です。

KB SPLIT

[KB SPLIT] (キーボード・スプリット) をオンにすると、キーボードが2つのゾーンに分割され、様々なスプリット構成やレイヤー構成を使用できます。

[PIANO] セクションと [SAMPLE SYNTH] セクションにある **[KB SPLIT]** の **[LO]** と **[UP]** の設定を使用して、スプリット・ポイントの左右にレイヤーを割り当てます。

スプリット・ポジションを選択する



[KEY] を押して、希望の位置に到達するまで、7つのキーボード・スプリット・ポジション (C3～C6) の間でスプリット・ポイントを移動します。キーボードの上にはLEDが付いており、どのスプリット・ポジションがオンになっているかが表示されます。

「▼」記号で示されるように、**[CLEAR]** ボタンを長押しするとすべてのアクティブ・レイヤーのKBスプリットがリセットされます。

スプリットの [X-FADE] 設定

通常、2つのキーボード・ゾーン間のトランジションは即時適用され、各ゾーンに対して選択されたサウンド同士はオーバーラップしません。いずれかの **[X-FADE]** 設定をオンにすることで、サウンド同士をミックスしたり、スプリット・ポイント上でクロスフェードをかけたたりしてサウンドがスムーズに切り替わるようになります。以下の3つのオプションを使用できます。

[X-FADE] をオフにすると、サウンド間にクロスフェードがかかりません。

[1] に設定するとスプリット幅が12半音分になります。スプリット・ポイントより下のサウンドは、スプリット・ポイントの6音上まで影響し(フェード・アウトがかり)、同様に、スプリット・ポイントより上のサウンドは、6音下のサウンドまで影響します。

[2] に設定するとスプリット幅が24半音分になり、スプリット・ポイントの上下12半音にクロスフェードがかります。

MIDI LED インジケーター

MIDI LED は [MASTER LEVEL] ダイアルの下にあり、MIDI インポートまたはUSBを介してMIDIメッセージを受信すると点滅します。

[PROGRAM] ダイアル

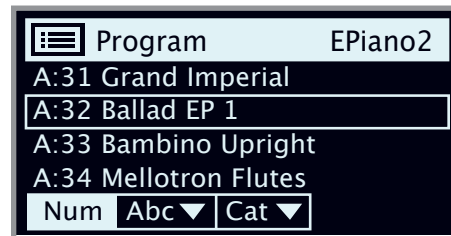


ディスプレイの左にある **[PROGRAM]** ダイアルは、プログラムの選択、パラメーター値の設定、プログラム名の文字入力に使用します。**[SHIFT]** ボタンを押しながら **[PROGRAM]** ダイアルを回すと **リスト機能** がオンになり、すべてのプログラムがリスト表示されます。

プログラム・リストの [ABC] と [CAT]

プログラムをブラウズする際、**[LIST]** ([SHIFT] + [PROGRAM] ダイアル) ビューにはプログラムの概要が番号順に表示されますが (ディスプレイ上で **[Num]** が選択されている場合)、その他にも2種類のソート・モードがあります。それが **[Abc]** ([PROGRAM SELECT 2]) と **[Cat]** ([PROGRAM SELECT 3]) です。

[Abc] モードではリストがアルファベット順に表示され、[Cat] モードでは選択したカテゴリーのすべてのプログラムが表示されます。特定の文字またはカテゴリーを選択するには、「[6] 記号で示されるように) ディスプレイ上の **[Abc]** または **[Cat]** ボタンを押したままダイヤルを回します。



数字パッドによるナビゲーション・モード

プログラムとバンクの切り替えは、デフォルトの「ページ・ベース」モードと数字パッド・モードという2種類のモードで行えます。数字パッド・モードのオン/オフを切り替えるには、**[NUM PAD]** ([SHIFT] + [PROGRAM VIEW]) を押します。

数字パッド・モードでは、5つのプログラムをページ上で直接切り替えるのではなく、[PROGRAM SELECT] ボタンの [1] ~ [5] を使用して現在のバンク内のプログラム番号 (11 ~ 55) を入力します。例として、現在のバンク内のプログラム12を選択するには、まず [PROGRAM SELECT 1] ボタンを押す (ページ1が選択される)、次に [PROGRAM SELECT 2] ボタンを押す (そのページ内のプログラム2が選択される)。また、以下の点にも注意してください。

- デフォルトのナビゲーション・モードと同様、[PROGRAM] ダイアルを回すとプログラムが順次切り替わります。
- ディスプレイの上部に表示される「num」記号は、数字パッド・モードがオンになっていることを示しています。



上の図は、[PROGRAM SELECT 1] ボタンを押した場合の例です。ダッシュ (-) は、次の桁を入力してプログラム11 ~ 15を選択できることを表しています。

ライブ・プログラム



Nord Piano 5 には簡単にアクセスできる 5 つのライブ・プログラムがあります。他のプログラムとは異なり、ライブ・プログラムへのエディットは自動的に保存されます。ライブ・プログラムを終了するか本機の電源を切ると、手動で保存操作を行わなくてもすべてのエディットが保存されます。ライブ・プログラムを選択するには、**[LIVE MODE]** ボタンを押したあと、**[PROGRAM]** エリアの [1] ~ [5] のいずれかのボタンを押します。

ライブ・プログラムは、保存機能を使用してプログラム・バンク内に保存できます。反対に、通常のプログラムをライブ・プログラムとして保存することもできます。

パニック

MIDI のセッティングを行っているときに本機の音が止まらなくなってしまう場合、または何らかの理由ですべてのサウンドを止める必要がある場合には、**[PANIC]** (**[SHIFT]** + **[LIVE MODE]**) を押します。これは、内部的に「オール・ノート・オフ」メッセージを発生させ、そのとき入力されているコントロール・チェンジ・メッセージをリセットする機能です。

[SHIFT]/[EXIT] ボタン



多くのコントロールにはもう 1 つの機能がおり、**[SHIFT]** ボタンを押しながらボタンを押すかダイヤルを回すとその機能を使用できます。**[SHIFT]** ボタンで使用できる機能の名前は、各コントロールの下にプリントされています。例えば、**[SHIFT]** ボタンを押しながら **[PROGRAM 2]** ボタンを押すと、サウンド・メニューが開きます。**[SHIFT]** ボタンは、メニューを終了するときや、保存操作を途中で中止するときにも使用します。

※ **[SHIFT]** を押しながらそのパラメーターに関連付けられたノブを回すと、パラメーターを変更することなく値を確認できます。

プログラム・セレクト・ボタン

[PROGRAM SELECT] ボタンの [1] ~ [5] を使用して現在のプログラム・バンク内の 5 つのプログラム (ページ) を瞬時に選ぶことができます。これらのボタンは、メニュー設定を操作する際にはディスプレイ上のボタンとしても機能します。ディスプレイ上のボタンの機能について詳しくは、7 ページをご参照ください。

プログラムとは?

プログラムには、選択したピアノ・サウンドやサンプル・インストゥルメントへの参照情報に加え、パネルで行ったすべての設定 (マスター・レベルを除く) が含まれます。システム・メニュー、サウンド・メニュー、MIDI メニューで行った設定はプログラムには含まれません。

- ❶ 「Silver Grand」のように、特定のピアノ・サウンドやサンプル・インストゥルメントの名前が付いたプログラムもあります。別のピアノ・サウンドをロードしてそのプログラムを保存しても、プログラム名は各プログラムに手動で割り当てられているため、自動的にプログラム名が変更されることはありません。

システム・メニュー、サウンド・メニュー、MIDI メニュー、ペダル・メニュー

[SYSTEM] (**[SHIFT]** + **[PROGRAM SELECT 1]**)、**[SOUND]** (**[SHIFT]** + **[PROGRAM SELECT 2]**)、**[MIDI]** (**[SHIFT]** + **[PROGRAM SELECT 3]**)、**[PEDAL]** (**[SHIFT]** + **[PROGRAM SELECT 4]**) を押すと、システム・メニュー、サウンド・メニュー、MIDI メニュー、ペダル・メニューがそれぞれ開き

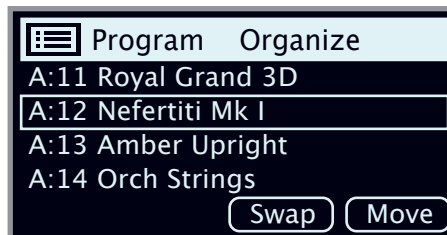
ます。利用できるすべてのメニュー設定については、22 ページをご参照ください。

ORGANIZE

[ORGANIZE] (**[SHIFT]** + **[PROGRAM SELECT 5]**) ビューを使用すると、プログラム・バンク内でプログラムを移動したり「スワップ」したりできます。

[ORGANIZE] ビューを開く

- ❶ **[ORGANIZE]** (**[SHIFT]** + **[PROGRAM 5]**) を押します。



2 つのプログラムを切り替える

スワップ操作を行うと、2 つのプログラムの位置が入れ替わります。

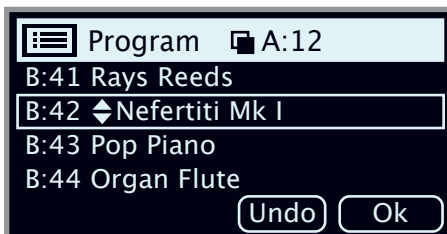
- ❷ ダイヤルを使用して、別のプログラムとスワップする必要のあるプログラムを選択し、**[Swap]** を押します。



- ❸ ダイヤルを使用してスワップ先を選択し、**[Ok]** を押すとスワップ操作が完了します。**[Undo]** を押すと操作が中止されます。

プログラムを移動する

- ❹ ダイヤルを使用して、別の場所に移動する必要のあるプログラムを選択し、**[Move]** を押します。



- ❺ ダイヤルを使用して移動先を選択し、**[Ok]** を押します。**[Undo]** を押すと操作が中止されます。

⚠ 移動元と移動先の間プログラムは 1 つ上または 1 つ下に移動し、影響を受ける範囲内のページに表示されるプログラムも変化します。

- ❶ プログラムは、Nord Sound Manager アプリケーションを使用して並べ替えることもできます。

7 エフェクト



エフェクトをオンにする

エフェクトをオンにするには、各エフェクトの **[ON OFF]** ボタンを押します。ボタンの上の LED は、そのエフェクトがどのサウンド・エンジンおよびレイヤーに割り当てられているかを示します（**[PIANO A]/[PIANO B]** または **[SYNTH A]/[SYNTH B]**）。

- ① デレイ・ユニットと EQ ユニットは、すべてのレイヤーに影響を与えるように設定できます。この設定では、**[SOURCE]** のすべての LED が点灯します。

[SOURCE] ボタン（**[SHIFT]** + **[ON OFF]**）を押すと、エフェクトがかかるサウンド・エンジンが切り替わります。**[SOURCE]** を押したまま **[PROG/MENU]** ダイアルを回してもソースを選択できます。

上記の方法以外にも、エフェクト・ソースを割り当てる簡単な方法が 2 つあります。

- ① 1 つまたは複数の **[LAYER]** ボタンを押したまま、エフェクトの **[SOURCE]** ボタンをクリックする方法。逆に、エフェクトの **[SOURCE]** ボタンを押したまま 1 つまたは複数の **[LAYER]** ボタンをクリックしても同様に機能します。
- ② **[SOURCE]** ボタンをダブルクリックする方法。この方法では、パネル上のアクティブなレイヤーのみが選択されます。

MOD 1

[MOD 1] ユニットには 6 種類のモジュレーション・エフェクトがあります。設定の切り替えにはセクター・ボタンを使用します。

TREM（トレモロ）

[TREM]（トレモロ）は、音量をモジュレートして周期的に変化させるエフェクトです。トレモロはエレクトリック・ピアノで非常によく使われるエフェクトです。

エフェクトの強さは **[TREM 1]**、**[TREM 2]**、**[TREM 3]**（1+2）から選択できます。

PAN（オート・パン）

[PAN] はステレオの左右をサウンドがスムーズに行き来するエフェクトです。

エフェクトの強さは **[PAN 1]**、**[PAN 2]**、**[PAN 3]**（1+2）から選択できます。

WAH（ワウ）

[WAH]（ワウ）はあらゆるサウンドをアヒルの鳴き声に似た特徴的なサウンドにするエフェクトで、エレクトリック・ピアノやクラビネットに使うと非常に効果的です。このエフェクトは、**[RATE]** ノブを使用してフィルターのカットオフ周波数をモジュレートさせるローパス・タイプのフィルターであり、スイープするときにサウンド・キャラクターが大きく変化します。



ワウ・エフェクトは入力信号の音量変化でフィルターのフリクエンスをコントロールするペロシティ・センシティブ（エンベロープ・フォロワー）なエフェクトです。

[CTRLPED] がオンになっている場合、このエフェクトは Nord Piano 5 に接続したコントロール・ペダルを使用して、従来のワウ・ペダルとして使用することもできます。

RM（リング・モジュレーション）

[RM]（リング・モジュレーション）は2つの入力信号を互いに掛け算するエフェクトで、不協和なベルのような音になります。Nord Piano 5 のリング・モジュレーションでは、インストゥルメントからの信号とエフェクトに内蔵のサイン波を掛け算するようになっており、固定のモジュレーション量が使用されます。

CTRL PED（コントロール・ペダル）

[CTRLPED] ボタン（[SHIFT] + [MOD 1]セクター）を押すと、[MOD 1]セクションのすべてのエフェクトを、コントロール・ペダル入力ジャックに接続したペダルでコントロールできるようになります。トレモロ・エフェクトとパン・エフェクトの場合、ペダルはエフェクトの量をコントロールします。これはパネルからはコントロールできません。

WAHとRMの場合、ペダルは[RATE]ノブと同じ働きをします。つまり、WAHの場合はペダルが従来のワウ・ペダルとして機能し、RMエフェクトの場合はモジュレーション・レートをペダルでコントロールできます。

MOD 2

[MOD 2] には、フェイザーとコーラス各2種類、フランジャーとヴァイブ・エフェクト各1種類を含むモジュレーション・エフェクトが用意されています。各エフェクトにはレートまたは速度があり、これらは **[RATE]** ノブで制御します。

PHAS 1/PHAS 2（フェイザー）

[PHAS]（フェイザー）エフェクトはいわゆるスウィープ・サウンドが特徴的で、エレクトリック・ピアノによく合うエフェクトです。Nord Piano 5 のデジタル・フェイザーは、Small Stone や Bi-Phase といったクラシック・フェイザーをベースにしています。

FLANG（フランジャー）

[FLANG]（フランジャー）は強烈なコム・フィルター効果を生み出すエフェクトで、サウンドに反響と「うねり」を加えます。

CHOR 1/CHOR 2（コーラス）

様々な用途に使用できる **[CHOR]**（コーラス）エフェクトは、モジュレーションをかけたオーディオ信号のコピーを複数ブレンドすることでサウンドに「広がり」を加えます。また、設定値を高くすれば強いデチューンもかけられます。コーラスは [CHOR1] と [CHOR2] の2種類あり、2つ目のエフェクトの方がはっきりとした効果を得られます。

VIBE（ヴァイブ）

[VIBE]（ヴァイブ）エフェクトは伝統的なフット・ペダルのエフェクトからヒントを得たもので、ピッチバンドとフェイザーの両方をかけたようなサウンドになります。このエフェクトは、一般的なフェイザーとは異なる方法でフェイズ・フィルターを多段階に配列したものです。

DEEP

[DEEP] モード（[SHIFT] + [MOD 2]セクター）をオンにすると、選択したエフェクトのモジュレーション量が増加します。



AMP/COMP

[AMP/COMP] ユニットには、高度なアンプ・シミュレーターとスピーカー・キャビネット・シミュレーター、多用途なチューブ・スタイルのオーバードライブ・エフェクト、便利なコンプレッサー・エフェクトがあります。ドライブやコンプの量は **[DRIVE/COMP]** ノブで調整できます。LED はオーバードライブがかかっているかどうかを示し、コンプレッサーが作動すると点灯します。

アンプ・モデル

3種類のアンプ/スピーカー・シミュレーションがあり、それぞれ次のような特徴があります。

SMALL：エレクトリック・ピアノに組み込まれたチューブ・アンプとスピーカーのシミュレーション

JC：クラシックなソリッドステート・アンプとスピーカー・キャビネットのシミュレーション

TWIN：クラシックなツイン・スピーカー・チューブ・アンプとキャビネットのシミュレーション

DIST（ディストーション）

[DIST]（ディストーション）は、微妙なサチュレーションから鋭いディストーションまで幅広く使えるチューブ・スタイルのオーバードライブ・エフェクトです。

COMP（コンプレッサー）

[COMP]（コンプレッサー）はサウンドのダイナミック・レンジを圧縮することで、低いレベルの信号を持ち上げ、高いレベルの信号を下げます。これにより、タイトで迫力のあるサウンドになり、特にライブでのミックスがしやすくなります。



EQUALIZER

トレブル、ミッド、ベースの3バンド・イコライザーです。各バンドの周波数は **[TREBLE]** が4kHz、**[MID]** は200Hz~8kHz、**[BASS]** は100Hzです。**[MID]** 周波数は **[FREQ]** ノブを使用して設定できます。ブースト/カット量は ±15dBです。



- ① **[EQUALIZER]** ユニットは、すべてのレイヤーに影響を与えるように設定できます。この設定では、**[SOURCE]** のすべてのLEDが点灯します。

DELAY

ディレイは、リピート・エコーを作り出すエフェクトです。ディレイ・タイムを設定するには、**[TEMPO]** ボタンをタップするか、**[TEMPO]** ボタンを押しながら **[PROGRAM]** ダイアルを使用してテンポを**設定**します。

[TEMPO SET] ボタンを押しながら **[DRY WET]** ノブを回すと、テンポを素早く変更できます。

[FEEDBACK] ボタンでディレイを繰り返す量（タップ）を設定します。最も低い値（LED は点灯しない）に設定すると最初のタップだけが聴こえ、**[1]**、**[2]**、**[3]** に設定すると、数字が大きくなるほどフィードバック・テイルが長くなります。

PING PONG

[PING PONG] モード（**[SHIFT]** + **[TEMPO]**）では、ディレイが左右のチャンネルで交互に繰り返されます。ディレイ・タイムを短くすると、リピートが非対称になり、リバース・エフェクトの初期反射音のようなサウンドになります。

[DRY WET] ノブで原音とディレイ音のバランスを調整します。

TEMPO TAP（テンポ・タップ）

[TAP] ボタンを使用して曲のテンポに合ったディレイ・タイムを設定することができます。欲しいディレイ・タイムのテンポを **[TEMPO]** ボタンで数回叩くと、あとは自動的にディレイ・タイムが調整されます。

- ① **[DELAY]** ユニットの、すべてのレイヤーに影響を与えるように設定できます。この設定では、**[SOURCE]** のすべての LED が点灯します。



REVERB

REVERB は、様々な音響環境で発生する自然な残響音をシミュレートするエフェクトです。リバースは、アクティブなすべてのサウンド・エンジンに常に適用される「グローバル」なエフェクトです。

REVERB ユニットのオン/オフは **[ON]** を押して切り替えます。

5 種類のリバースである **[BOOTH]**、**[ROOM]**、**[STAGE]**、**[HALL]**、**[CATH]**（大聖堂）は、再現される空間の広さが順に広がります。**[BOOTH]** モードは反響音が短く、**[ROOM]** モード、**[STAGE]** モード、**[HALL]** モードは反響音がより自然に響き、**[CATH]** モードでは非常に大きな臨場感のある残響音が再現されます。

[CHORALE]（**[SHIFT]** + タイプ）をオンにすると、各リバース・タイプにはっきりとしたモジュレーションがかかり、リバース信号に動きが加わります。

[BRIGHT] オプションをオンにすると、リバース信号の高周波数部分がより多く保持されます。**[DARK]** モードでは、高周波数部分が抑えられます。

[DRY WET] ノブでリバース音と原音のバランスを調整します。



8 MIDI

MIDI 機能

Nord Piano 5 は、外部音源などのハードウェアやソフトウェアをマスター・キーボードとしてコントロールできます。また、Nord Piano 5 を独立したキーボードや MIDI 機器からコントロールすることもできます。

MIDI チャンネル

MIDI チャンネルを使用すると、MIDI 情報の送受信を同時に行えます。本機の内蔵音源を使用しているのと同様の感覚でキーボード演奏を行えるほか、キーボード、ペダル、パネル上の操作を別の MIDI 機器やシーケンサーに送信できます。

MIDI メッセージは USB 接続と MIDI 入出力接続の両方で同時に送受信されます。

本機での演奏を MIDI シーケンサーや DAW にレコーディングする

ペダル操作やパラメーター調節を含め、本機での演奏を DAW や MIDI シーケンサーにレコーディングする方法を説明します。

- ① USB 経由で接続する場合は Nord Piano 5 の USB MIDI ドライバーを使用するように、また、5 ピン MIDI コネクター経由で接続する場合は対応する MIDI インターフェイスを使用するように、DAW またはシーケンサーを設定します。
 - ② DAW またはシーケンサーに入力された MIDI 信号を、本機の MIDI チャンネルとして再ルーティングします。
 - ③ システム・メニューに入り、ローカルをオフにします。
 - ④ レコーディングで使いたい本機のプログラムを選択します。
 - ⑤ シーケンサーのレコーディングを開始します。
- ❶ パネル上のトランスポーズ機能またはシステム・メニューの「Global Transpose」設定でトランスポーズ値が設定されている場合、MIDI への効果は「Transpose MIDI at」の設定によって異なります（22 ページを参照）。

MIDI メッセージ

Nord Piano 5 では、次の MIDI メッセージを送受信できます。

ノート・オン/オフ

- ・ベロシティを含むノート・オンおよびノート・オフ・メッセージの送受信を行います。

コントローラー

- ・コントロール・チェンジ・メッセージの送受信設定は、システム・メニューで行います。22 ページをご参照ください。
- ・コントロール/エクスペッション・ペダルをコントロール/ボリューム・ペダル・インプットに接続している場合、コントローラー 11 (CC11: エクスペッション) の送受信を行います。

- ・サスティン・ペダルをサスティン・ペダル・インプットに接続している場合、コントローラー 64 (CC64: サスティン・ペダル) の送受信を行います。
- ・本機のフロント・パネル上にあるほとんどのノブやボタンもコントロール・チェンジ・メッセージとして送受信でき、パネル上の操作をシーケンサーにレコーディングすることができます。MIDI コントロール・チェンジ・メッセージの一覧は、27 ページをご参照ください。

プログラム・チェンジ

プログラム、ライブ・プログラム、ピアノ、またはサンプルをロードすると、グローバル MIDI チャンネルにプログラム・チェンジ・メッセージが送信されます。このとき、各コンテンツの種類は Bank MSB の値で識別されます。反対に、プログラム・チェンジ・メッセージを受信した場合は、Nord Piano 5 上の対応するコンテンツが選択されます。このメッセージは以下の表に示す 3 つの部分で構成されています。

	プログラム	ピアノ	サンプル	ライブ
Bank MSB (CC# 0)	0	3	4	6
Bank LSB (CC# 32)	0 ~ 15	0 ~ 5	0 ~ X	0 ~ 1
プログラム・チェンジ	0 ~ 24	0 ~ X	0 ~ 49	0 ~ 3

X の値は、メモリー内のピアノまたはサンプルの数によって異なります。

- ❶ Nord Piano 5 に届いたプログラム・チェンジ・メッセージにバンク・セレクト・メッセージが含まれていない場合、そのメッセージは現在選択されているプログラムまたはライブ・バンクに適用されます。

プログラム・チェンジ・メッセージをグローバル・チャンネルで送受信するかどうかは、システム・メニューで設定できます。詳しくは 22 ページをご参照ください。

ローカル・コントロールのオン/オフ

ローカル・コントロールをオフに設定した場合、Nord Piano 5 のキーボードとパネルはサウンド・エンジンから「切り離されます」。オフ設定は、インストゥルメントを MIDI ループに設定する場合（例えば、DAW やシーケンサーと一緒に使用する場合）に使用します。ローカル・コントロールのオン/オフ設定は MIDI メニューで行います（22 ページをご参照ください）。

PANIC



MIDI のセッティングを行っているときに本機の音が止まらなくなってしまう場合、または何らかの理由ですべてのサウンドを止める必要がある場合には、**[PANIC]** ([SHIFT] + [LIVE MODE]) 機能を使用します。これは、内部的に「オール・ノート・オフ」メッセージを発生させ、そのとき入力されているコントロール・チェンジ・メッセージをリセットする機能です。

9 メニュー

システム・メニュー、サウンド・メニュー、MIDI メニュー、ペダル・メニューで行った設定はその場で有効になり、次に変更するまで維持されます。例外として、ローカル・コントロール MIDI 設定だけは Nord Piano 5 を起動するたびに「オン」の状態に戻ります。

各メニューを開くには、**[SHIFT]** を押しながら **[SYSTEM]**、**[SOUND]**、**[MIDI]**、または **[PEDAL]** ([PROGRAM SELECT] ボタンの [1]、[2]、[3]、[4]) を押します。メニューの切り替えはディスプレイ上の [3] ボタンと [4] ボタンで行い、設定を変更するには **[PROGRAM]** ダイアルを回します。その他の設定がある場合にもディスプレイ上のボタンを使用して表示できます。メニューを終了するには **[EXIT]** ([SHIFT]) ボタンを押します。

SYSTEM MENU

1 - MEMORY PROTECT

プログラムが誤って上書きされないように、Nord Piano 5 の出荷時にはメモリー・プロテクトがオンに設定されています。メモリー・プロテクトをオフに設定すると、保存操作が可能になります。メニュー設定とライブ・プログラムはこの設定の影響を受けません。

レンジ：On (デフォルト値)、Off

2 - GLOBAL TRANSPOSE

この設定では Nord Piano 5 全体のトランスポーズを半音単位でセットします。ここで設定した値は、プログラムごとに設定、保存できるパネル上で設定したトランスポーズ値に加算されます。

レンジ：± 6 半音 (デフォルト値 = 「none」)

3 - FINE TUNE

Nord Piano 5 のピッチを細かい精度でチューニングします。

レンジ：± 50 セント (デフォルト値 = 0)

4 - VERSION AND MODEL INFO

バージョンとモデル情報のメニューページには、現在インストールされている OS (オペレーティング・システム) の完全なバージョン番号と、本機のハードウェア情報が表示されます。

[PROGRAM] ダイアルを使用してバージョン情報とモデル情報を切り替えます。

SOUND MENU

1 - PIANO PEDAL NOISE LEVEL

ダイナミック・ペダル・ノイズ機能のレベルを設定します。この機能は、Nord Piano 5 に Nord Triple Pedal が接続されている場合に、対応するピアノでオンにできます。

レンジ：± 6dB (デフォルト値 = 0dB)

2 - PIANO STRING RES LEVEL

ストリング・レゾナンス機能をオンにした場合の、ストリング・レゾナンスのレベルを設定します (アコースティック・ピアノ・モデルの [Med]、[Lrg]、[XL] サイズでのみ使用可能)。

レンジ：± 6dB (デフォルト値 = 0dB)

MIDI MENU

1 - LOCAL CONTROL

Nord Piano 5 の鍵盤とパネルで内部サウンド・エンジンとプログラムを制御するか、または MIDI 信号のみを送信するか (ローカル・コントロール) の設定をします。ローカル・コントロール・オンが通常モードです。ローカル・コントロール・オフの場合は、フロント・パネルとキーボードは MIDI 信号のみを送信します。

レンジ：On (デフォルト値)、Off

- ❶ このパラメーターの設定は本機の電源投入時に必ず「On」になります。

2 - MIDI CHANNEL

Nord Piano 5 の送受信 MIDI チャンネルをこのパラメーターで設定します。この MIDI チャンネルは、すべてのキーボード、ペダル、パネル上の操作を MIDI 信号として送信するチャンネルです。また、本機全体を MIDI でコントロールするときもこのチャンネルを使用します。

レンジ：1 ~ 16、Off (デフォルト値 = 1)

3 - CONTROL/PROGRAM CHANGE MODE

CC (コントロール・チェンジ)

MIDI コントローラー・メッセージを、MIDI チャンネルで送受信するかどうかを設定します。

レンジ：Off、Send、Receive、Send & Receive (デフォルト値)

PC (プログラム・チェンジ)

MIDI プログラム・チェンジ・メッセージを、MIDI チャンネルで送受信するかどうかを設定します。

レンジ：Off、Send、Receive、Send & Receive (デフォルト値)

4 - TRANSPOSE MIDI AT

[In] に設定すると、アクティブなトランスポーズ値 (パネル上のトランスポーズ・コントロールを使用してグローバル / プログラムごとに設定) が受信される MIDI データにのみ適用され、送信される MIDI には適用されません。[Out] モードでは、送信される MIDI ノートのみがトランスポーズされ、受信する MIDI ノートはトランスポーズされません。

レンジ：In (デフォルト値)、Out

5 - MIDI OUT VELOCITY CURVE

送信される MIDI ノートのベロシティをスケールリングするための 3 つのオプションがあります。[Heavy] に設定すると、生成される MIDI は Nord

Piano 5 のピアノ・エンジンのダイナミック・レンジに対応します。この設定は、ローカル・キーボードからローカル・コントロール「オフ」モードで Nord Piano 5 を演奏する場合に使用するようにしてください。[Medium]、[Light] に設定すると、[Heavy] よりも小さな力で高いペロシティ値を生成できます。

レンジ：Heavy (デフォルト)、Medium、Light

ペダル・メニュー

1 - SUSTAIN PEDAL TYPE

[SUSTAIN PEDAL] ジャックに接続されたペダルの種類を選択します。サステイン・ペダルには極性があり、ペダルと本機の極性が合っていないとペダルを踏んでいないときにサステインがかかってしまい、踏んだときにサステインが止まります。このような場合、このパラメーターで極性を反転させます。[Auto] の場合は、本機がペダルの極性を自動的に検出します。

レンジ：Triple、Open、Closed、Auto (デフォルト値)

2 - CONTROL PEDAL

TYPE

Nord Piano 5 は多くのブランドのコントロール・ペダルを **[CONTROL PEDAL]** インプットに接続できます。コントロール・ペダルを使用する際、このパラメーターで主な各ペダルの特性に合わせます。

※ 接続したペダルをこのメニューで使用している場合、接続したペダルのレンジを示すパーセンテージがディスプレイに表示されます。

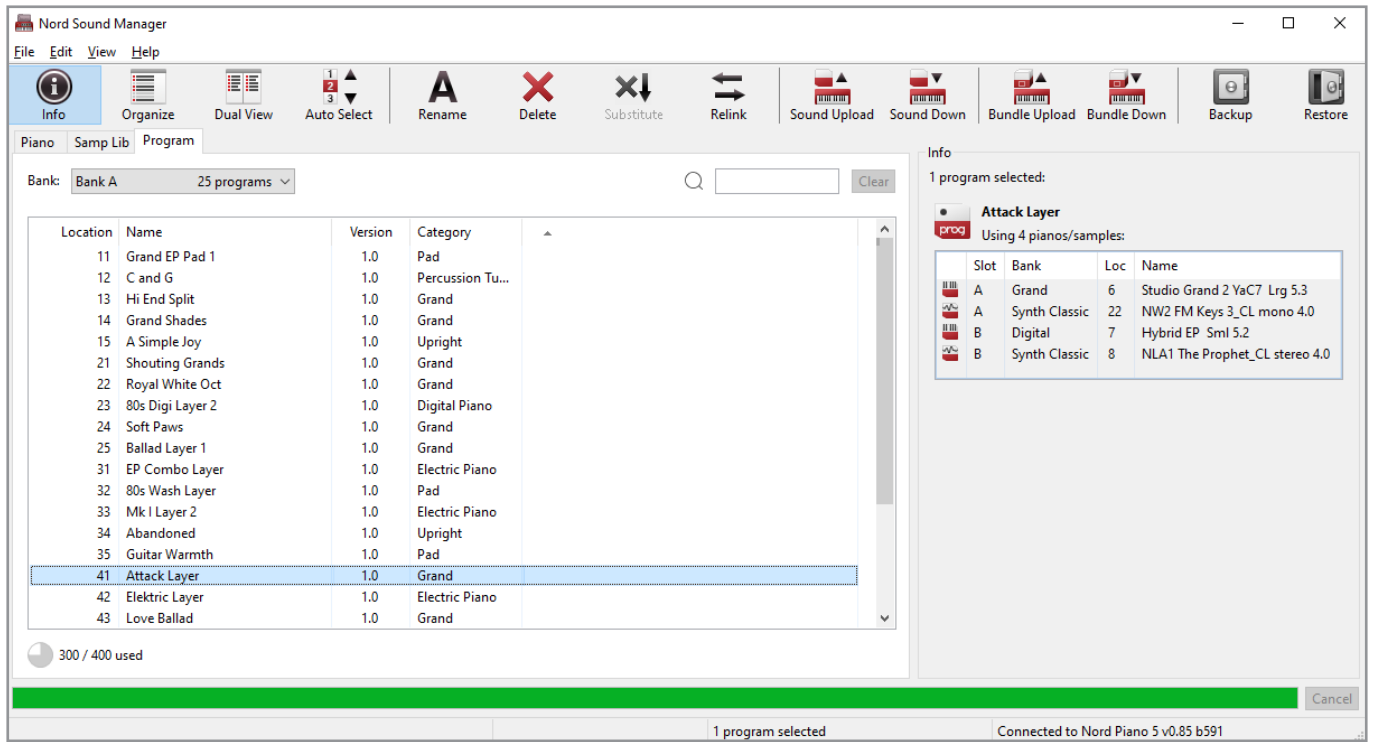
レンジ：Roland EV7 (デフォルト値)、Yamaha FC7、Korg、Fatar/Studiologic

GAIN

[CONTROL PEDAL] インプットに接続したペダルを完全に踏み込んだ状態でも、コントロールするパラメーターの最大値や最大設定に達しない場合、この設定でペダル信号をアップさせることができます。

レンジ：1 ~ 10

10 NORD SOUND MANAGER



NORD SOUND MANAGER について

Nord Sound Manager は Nord 製品のユーザーにとって非常に重要なアプリケーションです。Nord Sound Manager を使用することで、Nord Piano 5 の様々なメモリー・エリア内のコンテンツの並べ替え、変更、バックアップなどを実行できます。Nord Sound Manager では主に次のようなタスクを実行します。

- ・プログラムに名前を付ける/並べ替える。
- ・ピアノ・パーティションに新しいピアノ・サウンドをダウンロードする。
- ・サンプル・パーティションに新しいサンプルをダウンロードする。
- ・Nord Piano 5 からコンピュータにプログラムをアップロードする。
- ・プログラムおよび関連付けられたピアノ・ファイルとサンプル・ファイルを含むバンドルをアップロードする。
- ・インストゥルメント全体のバックアップを実行する。
- ・バックアップ・ファイルを使用してインストゥルメント全体を以前の状態に戻す。

Nord Sound Manager およびこのアプリケーションのユーザー・マニュアルは、Nord ウェブサイト (www.nordkeyboards.jp) のソフトウェア・ページからダウンロードできます。

動作環境

Mac OS X 10.7 以降

Windows 7、Windows 8、Windows 10

Windows でご利用の場合は、Nord USB Driver バージョン v3.0 以降をインストールする必要があります。

11 NORD SAMPLE EDITOR



NORD SAMPLE EDITOR について

Nord Sample Editor は、Nord Piano 5 で再生できるカスタム・サンプル・インストゥルメントを作成するためのツールです。オーディオ・ファイル (.wav または .aiff) を任意の鍵盤にドロップし、波形エディターで開始ポイント、終了ポイント、ループ・ポイントを設定したら、あとは接続された Nord Piano 5 にカスタム・サンプルを送信するだけです。

詳細にマッピングされたインストゥルメントやシンプルな FX サウンドの作成、あるいはサンプリングした曲のイントロを 1 つの鍵盤に割り当てるなど、Nord Sample Editor と Nord Piano 5 を連携させることで多くの可能性が広がります。以下に、主な特徴をご紹介します。

- ・直感的なユーザー・インターフェイス
- ・1つまたは複数のサンプルをドラッグ・アンド・ドロップ
- ・自動または手動のインポート・オプション
- ・複数のゾーンを一度に編集
- ・サイレント・ゾーンをサポート

Nord Sample Editor は、Nord ウェブサイト (www.nordkeyboards.jp) のソフトウェア・セクションから最新版をダウンロードできます。

動作環境

Mac OS X 10.7 以降

Windows 7、Windows 8、Windows 10

Windows でご利用の場合は、Nord USB Driver バージョン v3.0 以降をインストールする必要があります。通常は Windows Update から自動的にインストールされますが、Nord ウェブサイト (www.nordkeyboards.jp) からダウンロードすることもできます。

12. 接続について



オーディオの接続

オーディオ接続について：すべての接続が済んでからアンプの電源を入れてください。アンプの電源は必ず最後に入れ、電源を切るときは必ず最初にアンプまたはアクティブなスピーカーの電源を切ってください。

⚠ Nord Piano 5を大音量で使用すると、聴覚を損なう恐れがあります。

HEADPHONES

ステレオの標準フォーンジャックです。アウトプット・ルーティングの設定に関係なく、オーディオは常にヘッドフォン・アウトプットから出力されます。

LEFT OUT、RIGHT OUT

モノラルの標準フォーンジャックで、アンプやレコーディング機器に接続します。Nord Piano 5は、左右のオーディオ・チャンネルに個別の信号経路を持つステレオ・インストゥルメントです。

MONITOR IN

スマートフォン、タブレット、コンピュータなどのデバイスを Nord Piano 5に接続するための 1/8 インチ・ジャックです。事前に録音した音楽やメトロノームに合わせて演奏やリハーサルを行ったり、ステージ上で追加のサウンド・ソースを使用したりする場合に便利です。モニター・インで入力された信号は、ヘッドフォン・アウトプットと左右のアウトプットにルーティングされます。

⚠ Nord Piano 5のマスター・レベル・コントロールは、モニター・イン信号のレベルには影響しません。再生デバイスのボリューム・レベル・コントロールを使用して、希望するレベルを設定してください。

MIDI の接続

MIDI IN

コントローラー・キーボード、シーケンサー、コンピュータなどの外部 MIDI 機器から送信された MIDI データを受信するための 5 ピン MIDI イン接続です。

MIDI OUT

外部の MIDI 音源モジュールやコンピュータなどのデバイスに MIDI データを送信する 5 ピン MIDI アウト接続です。

USB 接続

USB ポートは Nord Piano 5 をコンピュータに接続する際に使用します。MIDI 送信や OS アップデートのほか、Nord Sound Manager や Nord Sample Editor といったアプリケーションの接続に使用できます。これらのアプリケーションと最新の OS は、Nord ウェブサイト (www.nordkeyboards.jp) からいつでもダウンロードできます。

❗ USB MIDI と標準の 5 ピン MIDI コネクタは同時に使用できません。

ペダル接続

SUSTAIN PEDAL

標準フォーンタイプのコネクタでスイッチタイプのサスティン・ペダルを接続します。付属の Nord Triple Pedal の接続にも使用します。サスティン・ペダルの極性は自動的に検出することも、ペダル・メニューで手動で設定することもできます (23 ページを参照)。

VOL/CTRL PEDAL

ピアノやサンプル・シンセのボリューム、エフェクト 1 の量などのコントロールに使用する、コンティニューアス・タイプのエクスプレッション・ペダルを接続するためのステレオ・フォーンタイプのコネクタです。一般的なエクスプレッション・ペダルのほとんどのメーカーとモデルに対応しています。使用するエクスプレッション・ペダルはペダル・メニューで選択できます (23 ページを参照)。

付録：MIDI コントローラー・リスト

Nord Piano 5パラメーター	MIDI CCナンバー
Bank Select MSB	0
Bank Select LSB	32
Volume	7
Pan	10
Sustain	64
Soft Pedal	67
Sostenuto	66
Ctrl Pedal (Expression)	11
KB Split Key	5
KB Splt X-Fade	6
Transpose On/Off	9
Piano Layer A On/Off	33
Piano Layer B On/Off	37
Piano Level	34
Piano Octave Shift	35
Piano Sustain Pedal	49
Piano Volume Pedal	50
Piano Timbre	40
Piano Acoustics	52
Piano Touch	51
Piano Pedal Noise	53
Piano Layer Detune	54
Piano KB Split	55
Sample Synth Layer A On/Off	42
Sample Synth Layer B On/Off	57
Sample Synth Level	43
Sample Synth Octave Shift	44
Sample Synth Sustain Pedal	45
Sample Synth Volume Pedal	46
Sample Synth Attack	68
Sample Synth Decay/Release	69
Sample Synth Dynamics	72
Sample Synth Timbre	65
Sample Synth Vibrato	74
Sample Synth Unison	63
Sample Synth KB Split	77
Effect Mod 1 Enable	82
Effect Mod 1 Type	83
Effect Mod 1 Source	84
Effect Mod 1 Ctrl Ped	85

Nord Piano 5パラメーター	MIDI CCナンバー
Effect Mod 1 Rate	86
Effect Mod 2 Enable	91
Effect Mod 2 Type	87
Effect Mod 2 Source	88
Effect Mod 2 Deep	89
Effect Mod 2 Rate	90
Amp/Comp Enable	118
Amp/Comp Type	100
Amp/Comp Source	119
Amp/Comp Drive	117
EQ Enable	105
EQ Source	106
EQ Bass	102
EQ Mid	103
EQ Treble	104
EQ Mid Frequency	107
Delay Enable	97
Delay Source	92
Delay Ping Pong	98
Delay Dry/Wet	93
Delay Rate	94
Delay Feedback	95
Reverb Enable	116
Reverb Type	115
Reverb Dry/Wet	113
Reverb Bright/Dark	112
Reverb Chorale	111

Nord Piano 5 Parameter	Bank #
Bank Select MSB Program	0
Bank Select MSB Live	6
Bank Select MSB Piano	3
Bank Select MSB Sample	4



索引

記号・英数字

Attack (サンプル・シンセ) 14
 Bass (イコライザー) 19
 Bright 14
 Bright (リバーブ) 20
 CHOR 1&2 (コーラス) 19
 Chorale 20
 Clav EQ (クラビネット EQ) 12
 Clear (KB Split) 16
 CTRL PED (MOD 1) 19
 Dark (リバーブ) 20
 Decay/Release (サンプル・シンセ) 14
 DEEP 19
 Dyno 1 12
 Dyno 2 12
 Exit (ボタン) 17
 Fine Tune 22
 Gain (Ctrl Pedal) 23
 Global Transpose 22
 KB スプリット 10, 13
 Key (KB Split) 16
 Layer Init 10, 13
 LEFT OUT、RIGHT OUT 26
 MIDI 21
 MIDI LED インジケーター 16
 MIDI アウト 26
 MIDI イン 26
 MIDI コントローラー・リスト 27
 MIDI メッセージ 21
 MID (イコライザー) 19
 Nord Piano Library 11
 Nord Sample Editor 3 5
 Nord Sound Manager 24
 Nord Triple Pedal 12
 Num Pad (数字パッド) 16
 OS (オペレーティング・システム) 5, 22
 PING PONG 20
 SHIFT (ボタン) 17
 Sound Menu 22
 Sustain (サンプル・シンセ) 14
 Timbre 14
 Transpose MIDI At (MIDI メニュー) 22
 Treble (イコライザー) 19
 Trem (トレモロ) 18
 Type (Ctrl Pedal) 23
 USB 接続 26
 VIBE (ヴァイブ) 19
 VOL/CTRL PEDAL 26
 Wah (ワウ) 18
 www.nordkeyboards.jp 5
 X-FADE 16
 [CATEGORY] ダイアル 14
 [PROGRAM SELECT] (ボタン) 17
 [PROGRAM] ダイアル 16

ア行

アップライト 11
 アンプ・モデル 19
 エフェクト・セクション 18
 エレクトリック (ピアノ) 11
 オーディオ接続 26

カ行

カテゴリー (サンプル・シンセ) 14
 クラビネット 11
 グランド 11
 コントロール・チェンジ 22
 コンプレッサー 19

サ行

サスティン・ペダル 23
 サンプル・シンセ 13
 スtring・レゾナンス 12
 スプリット 15
 スプリット・ポジション 16
 スワップ (並べ替え) 17
 接続 26
 ソステヌート 12
 ソフト 14
 ソフト・ペダル (ウナ・コルダ) 12
 ソフト・リリース 12

タ行

ダイナミクス 14
 タップ・テンポ (ディレイ) 20
 ディスプレイ上のボタン 7, 22
 ディレイ (エフェクト) 19
 デジタル (ピアノ) 11
 トリプル・ペダル 12

ナ行

名前を付けて保存 15

ハ行

バージョンとモデル情報 22
 ハーフ・ペダリング 12
 パニック 17, 21
 パネル MIDI コントロール 21
 ピアノ 10
 ピアノ・インフォ 11
 ピアノ・サイズ 11
 ピアノ・String・レゾナンス・レベル 22
 ピアノ・セレクト 11
 ピブラート 14
 ファクトリー・プリセット 5
 フェイザー 1&2 19
 フランジャー 19
 プログラム 17
 プログラム・チェンジ 21, 22
 ペダル・ノイズ 12
 ヘッドフォン 26

マ行

メニュー 22
 メモリー・プロテクト 22
 モデル (ピアノ) 11
 モニター・イン 26
 モノ 16

ヤ行

ユニゾン 14
 ライブ・モード 17
 リスト・ビュー 11, 14, 16
 リバーブ 19
 レイヤー (サンプル・シンセ) 13
 レイヤー・デチューン 11
 レイヤー (ピアノ) 10

ラ行

ローカル・コントロール (MIDI) 21, 22

仕様

グローバル

- ・有機 LED (OLED) ディスプレイ
- ・シームレス・トランジション
- ・スプリットポイント クロスフェード
- ・プログラム：400 (16 バンク X 25 プログラム)
- ・プログラムのオーガナイズ機能
- ・ライブモード：5 ライブ・プログラム
- ・グローバル・トランスポーズ：± 6 半音
- ・プログラム・トランスポーズ：± 6 半音
- ・ファイン・チューン：+/- 50 セント
- ・キーボードタッチ：ベロシティカーブ 3 種
- ・トリプル・センサー・キーボード + バーチャル・ハンマーアクション・テクノロジー
- ・スプリット機能：スプリットポイントを選択可、LED で明示
- ・レイヤー機能
- ・モノラルアウトプット機能
- ・Nord Triple Pedal 同梱：ダイナミック・サステインペダル・アクション
- ・USB-MIDI 機能
- ・OS updates は無料で利用可能

ピアノ・セクション

- ・2 つの独立したレイヤー
- ・6 タイプのピアノ：グランド、アップライト、エレクトリック、デジタル、レイヤー、クラビネット、ハーブシコード
- ・各カテゴリ最大 20 モデルまで搭載可能
- ・同時発音数 120 音 (stereo/mono 共に)
- ・ピアノティンバー機能：ソフト、ミッド、ブライト (アコースティックピアノ)、Dyno 1/2 (エレクトリック・ピアノ)
- ・レイヤーデチューン機能：3 段階
- ・アドバンスド・ストリング・レゾナンス (第 2 世代)：量は調節可
- ・ソフトリリース：選択可：グランド、アップライト、エレクトリック・ピアノ、ハーブシコード
- ・ペダルノイズ：選択可：グランド、アップライト、エレクトリック・ピアノ 1：量は調節可
- ・オクターブ・トランスポーズ：-1/+1 (スプリットモードでは -6/+6、スプリットポイントによって変わる)

サンプル・シンセ・セクション

- ・同時発音数：40 音以上
- ・アンブエンベロープ：アタック、ディケイ/リリース
- ・ティンバー機能：ブライト、ソフト
- ・ピブラート機能：量は調節可、3 種のディレイ設定
- ・ユニゾン機能：3 段階で調節可
- ・ベロシティセンス：ローパスフィルター、ダイナミクス
- ・オクターブ・トランスポーズ：-1/+1 (スプリットモードでは -6/+6、スプリットポイントによって変わる)
- ・フットコントローラー (別売) で音量コントロール可能

メモリ

- ・Nord Piano Library：合計 2GB
- ・Nord Sample Library：合計 1GB

エフェクト・セクション

- ・エフェクト 1：パン、トレモロ、ワウ、リングモジュレータ (パン、トレモロは 3 段階のデプスを選択可、レイトノブでレイトを調節可、トレモロ、パン、リングモジュレータ、ワウはコントロール・ペダルでコントロール可)

- ・エフェクト 2：フェイザー 1/2、フランジャー、コーラス 1/2、ヴァイブ (2 段階のデプスを選択可)
- ・アンブシミュレーション、コンプレッサー、EQ
- ・コンプ/アンブ：3 タイプのアンブ/スピーカーシミュレーション、チューブ・オーバードライブ
- ・ドライブ/コンプレッションの度合いはドライブ・ノブで調節可
- ・EQ：3 バンド、MID はスウィープ可、+/-15dB ゲイン/アッテネート、グローバルモード
- ・ディレイ：レイト、アメント調節可能、タッピング、ピンポンモード、グローバルモード
- ・マスターエフェクト：リバーブ (ブース、ルーム、ステージ、ホール、カテドラル、ダーク/ブライト、コーラル (モジュレーション効果))

接続端子

- ・オーディオ出力：LEFT OUT、RIGHT OUT、標準ジャック (アンバランス)
- ・ヘッドフォン出力：標準ステレオ・ジャック
- ・モニター入力：ミニステレオ・ジャック
- ・サステイン・ペダル入力：標準ジャック (付属ペダルまたはモーメントリー・タイプのペダルをご使用ください)
- ・コントロール・ペダル入力：TRS ジャック
- ・MIDI：MIDI IN、MIDI OUT (5 ピン DIN コネクター)
- ・USB：タイプ B コネクター
- ・電源コネクター：IEC C14 CONNECTIONS

寸法

- ・Nord Piano 5 73: 1070mm (W) X 342mm (D) X 120mm (H)
- ・Nord Piano 5 88: 1287 mm (W) X 342mm (D) X 120mm (H)
- ・Nord Triple Pedal: 264 mm (W) X 224 mm (D) X 70 mm (H)

重量

- ・Nord Piano 5 88: 18.5 kg
- ・Nord Piano 5 73: 15.5 kg
- ・Pedal: 2 kg

同梱品

- | | |
|--------------------|-----|
| ・Nord Triple Pedal | x 1 |
| ・ユーザーマニュアル (英文) | x 1 |
| ・電源ケーブル | x 1 |
| ・保証書 | x 1 |
| ・重要なお知らせ | x 1 |

オプション

- ・Nord Keyboard Stand EX
- ・Nord Soft Case
- ・Nord Music Stand V2

仕様は予告なく変更することがあります。

本書は OS バージョン:1.16 時に作成しています。今後のアップデートで機能の拡張やユーザー・インターフェースが変更になる場合があります。

本書に記載のブランド名、製品名はすべて各保有者の商標または登録商標であり、Clavia 社とは一切の関係はありません。また、これらの製品名、ブランド名は本機の性能やサウンドを説明するためののみ使用しています。

